

泉大津市文化財調査報告42

# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報26

2008・3

泉大津市教育委員会



泉大津市文化財調査報告42

# 泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報26

2008・3

泉大津市教育委員会

## 例 言

1. 本調査概報は、泉大津市教育委員会が市内に所在する埋蔵文化財包蔵地において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である
2. 本調査は、国庫補助事業（補助対象経費2,000,000円、国庫補助率50%・市負担率50%）として泉大津市が計画・実施したものである。
3. 本事業は平成19年度事業として、平成19年4月1日に着手し、平成20年3月31日に完了した。

4. 本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	中井 譲
事務局	泉大津市教育委員会事務局	生涯学習課
担当者	寒 雄二	
〃	竹内 香	
嘱 託	奥野 美和	

5. 遺物整理作業に従事したものは、下記のとおりである。

外業調査員	岡田 竜彦	田之上 裕子
遺物整理作業員	野田 由恵	岸本 和美
〃	草間 正彦	

6. 本書の座標は世界測地系を使用している。
7. 出土品および原図・写真類は、泉大津市教育委員会事務局が保管している。
8. 本書の執筆、編集は奥野が行った。

# 目 次

## 第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

1. 泉大津市の位置と環境	1
2. 埋蔵文化財調査の現状	3
3. 試掘確認調査一覧	4
4. 試掘確認調査位置図	
穴師薬師寺跡・穴師小学校校庭遺跡・豊中遺跡・大福寺跡・七ノ坪遺跡	5
池上曾根遺跡・千原城跡	6
虫取遺跡	7

## 第2章 試掘確認調査結果

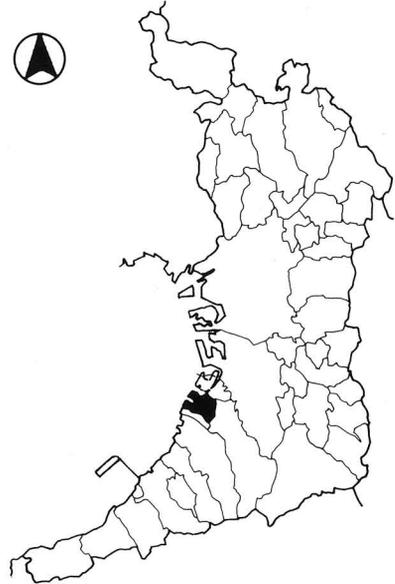
1. 穴師薬師寺跡・ 穴師小学校校庭遺跡	2007-01地点	8
2. 豊中遺跡・大福寺跡	2007-02地点	10
	2007-10地点	14
	2007-12地点	16
3. 七ノ坪遺跡	2007-03地点	23
	2007-07地点	25
4. 池上曾根遺跡	2007-08地点	26
	2007-09地点	28
	2007-11地点	39
5. 千原城跡	2007-06地点	41
6. 虫取遺跡	2007-04地点	46
	2007-05地点	48
遺物観察表		49

# 第1章 泉大津市と埋蔵文化財調査の状況

## 1. 泉大津市の位置と環境

泉大津市は大阪府南部の泉州地域に位置する。北部・東部は高石市と和泉市、南部は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接している。泉州地域東部には、大阪湾に沿って東西に和泉山脈が連なる。その山脈を源として幾多の河川が北に走行し、大阪湾に注ぐ。これらの河川はそれぞれ開析谷、河岸段丘を形成し、その両側には丘陵地形が南北方向に発達している。その丘陵より北側は平坦で狭小な沖積地が形成されているが、泉大津市はこの沖積地上に立地しており、市域の標高は20m未満である。

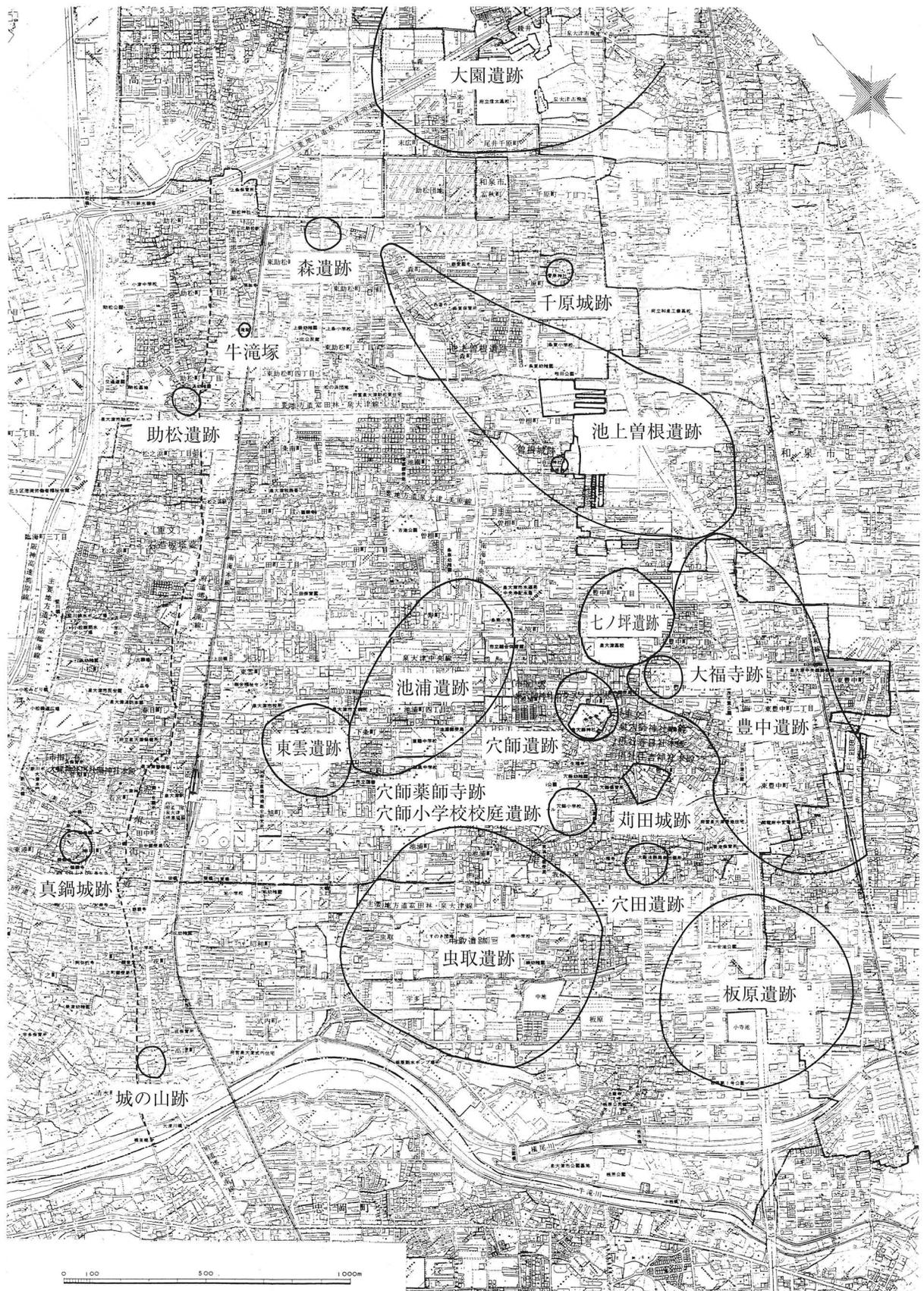
泉大津市は面積12.83km<sup>2</sup>、うち約3.87km<sup>2</sup>が公有水面の埋立地である。人口78,560人（平成19年12月1日現在）、東西5.5km、南北4.5kmにわたる都市である。昭和40年頃から開発が進み、現在は市域全域が市街地化されている。市域は大阪湾に面した臨海部の工業地域、南海本線から阪和線にかけての住居地域と商工業地域が混在する地域、国道26号線周辺の商業地域に大きく分けることができる。住居地域には、助松の紀州街道沿いと泉穴師神社周辺にそれぞれ風致地区を設けている。近年、臨海部の高層住宅や繊維工場跡地への分譲住宅の建設が進み、市の景観の変化は著しい。いわゆるバブル景気崩壊以後、大規模開発は下火になっているものの、古い民家の取り壊しや建替えなどが進み、町並みにも大きな変化が見られる。



第1図 泉大津市の位置



第2図 市内遠望



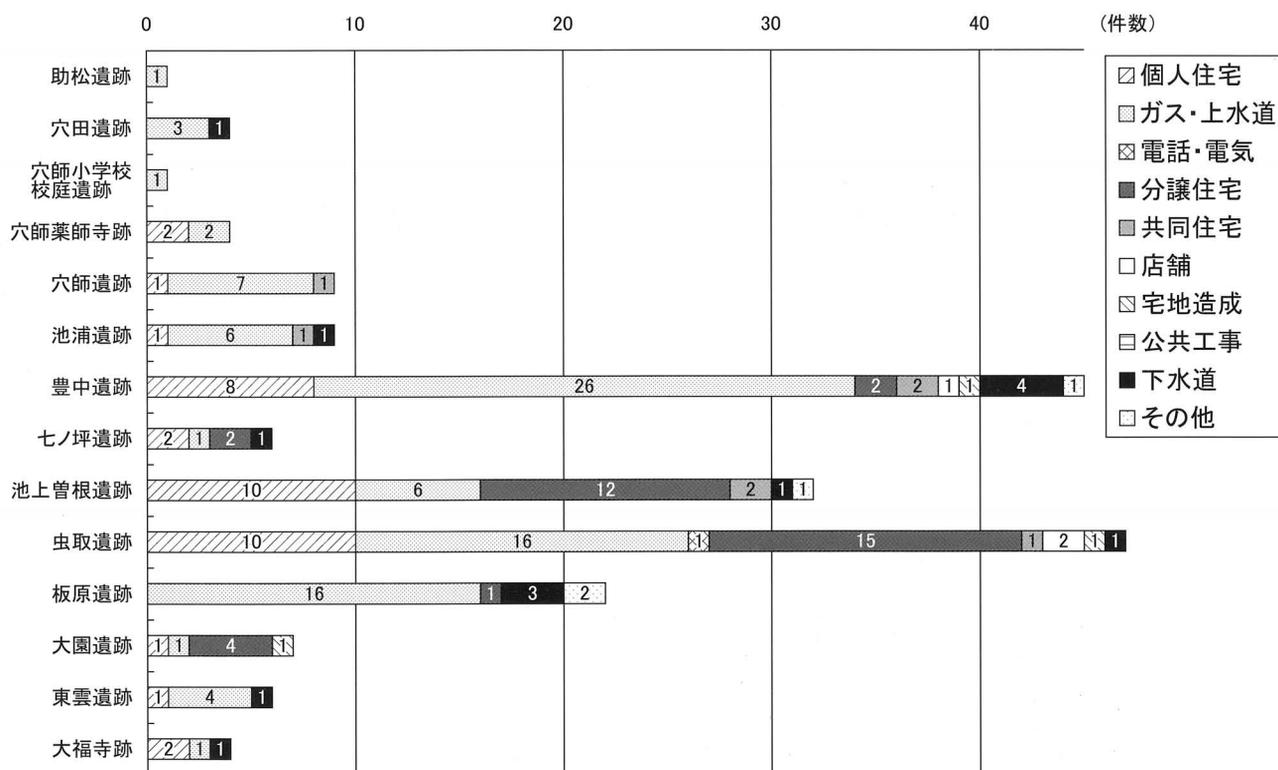
第3図 遺跡分布図

## 2. 埋蔵文化財調査の現状

本概報は、平成19年1月～12月の期間に埋蔵文化財発掘届の提出があり、そのうち国庫補助事業により発掘調査を実施したものを対象とする。当該期間内の埋蔵文化財届出数は190件、延べ197遺跡で、うち12件を国庫補助事業として発掘調査を行った。

第4図は、遺跡別工事件数の内訳である。遺跡別に届出件数をみると、虫取遺跡、豊中遺跡、池上曾根遺跡、板原遺跡の順が多い。総届出件数に占める工事内容で最も多いのはガス・上水道（91件）で46%、次いで個人住宅（38件）19%、分譲住宅（36件）で18%を占める。この傾向は例年と同様である。近年の特徴として下水道管渠掘削工事（14件）の増加が挙げられる。下水道管渠掘削工事にはガス・上水道管の移設工事が伴うため、こちらの工事数も増加の傾向にある。今後も下水道管渠埋設工事の継続が計画されており、届出件数の増加要因となると考えられる。

本概要で報告する調査は、穴師薬師寺跡1件、豊中遺跡・大福寺跡3件、七ノ坪遺跡2件、池上曾根遺跡3件、千原城跡1件、虫取遺跡2件の合計12件である。いずれも建物基礎掘削深度、もしくは下水道管渠埋設のための掘削深度が遺構面を損壊する可能性があるため、着工前の試掘確認調査を行ったものである。



第4図 遺跡別工事内容内訳

### 3. 試掘確認調査一覧

#### ○穴師薬師寺跡・穴師小学校校庭遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-01	我孫子1丁目507、508の一部	個人住宅	485.20

#### ○豊中遺跡・大福寺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-02	北豊中町2丁目989-5、989-6	その他(自治会館)	195.15
2007-10	北豊中町3丁目976番7、976番8の一部	宅地造成	1,484.19
2007-12	豊中町2丁目 地内	下水道管渠掘削工事	604.1

#### ○七ノ坪遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-03	北豊中町2丁目464-1の一部、464-12	個人住宅	240.98
2007-07	北豊中町2丁目475-7	個人住宅	56.91

#### ○池上曾根遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-08	森町2丁目194-1、199-1、201-2	共同住宅	1,056.77
2007-09	曾根町1丁目 地内	下水道管渠掘削工事	203.9
2007-11	森町2丁目227-74	個人住宅	169.99

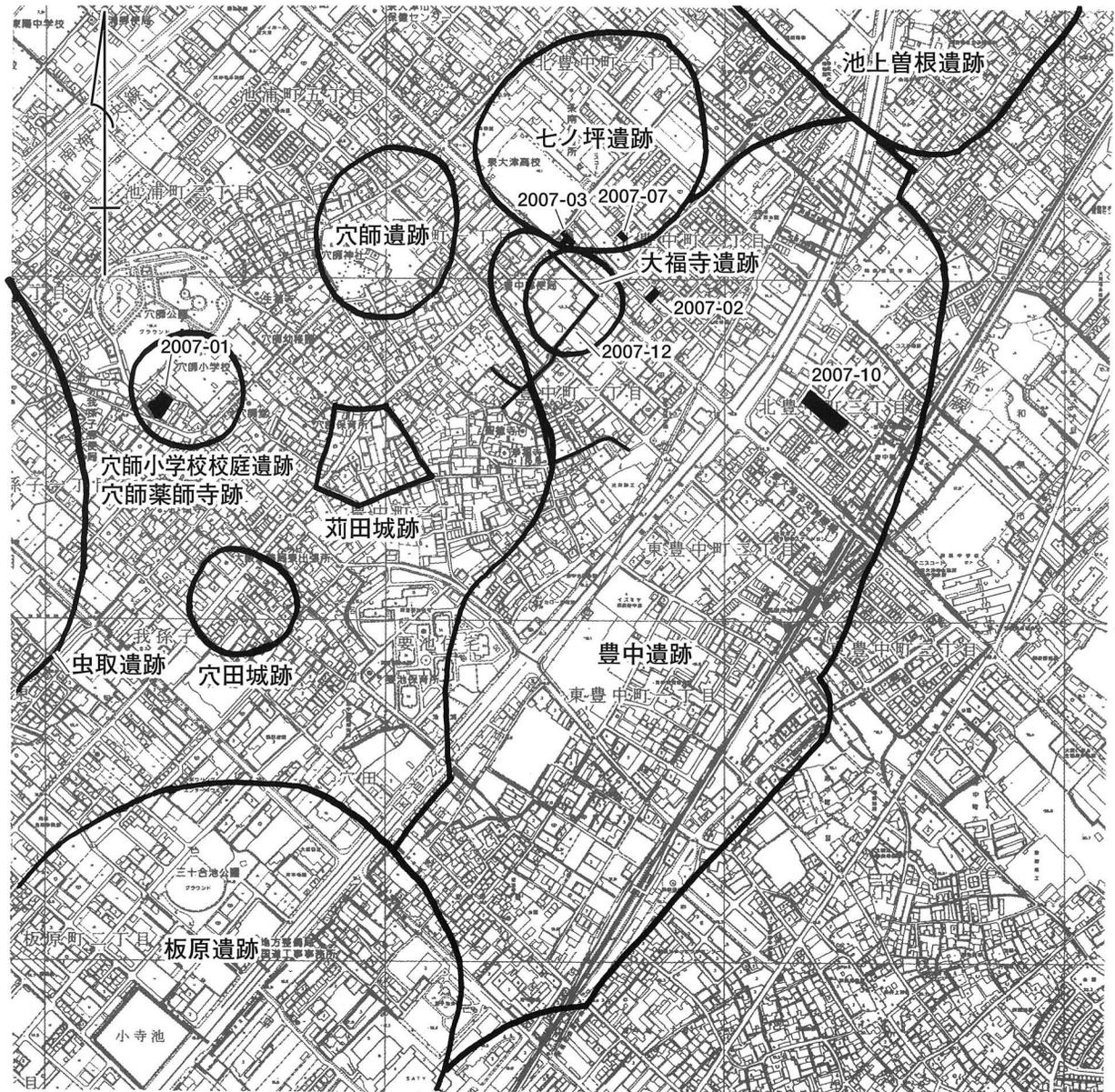
#### ○千原城跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-06	千原町2丁目233	個人住宅	417.82

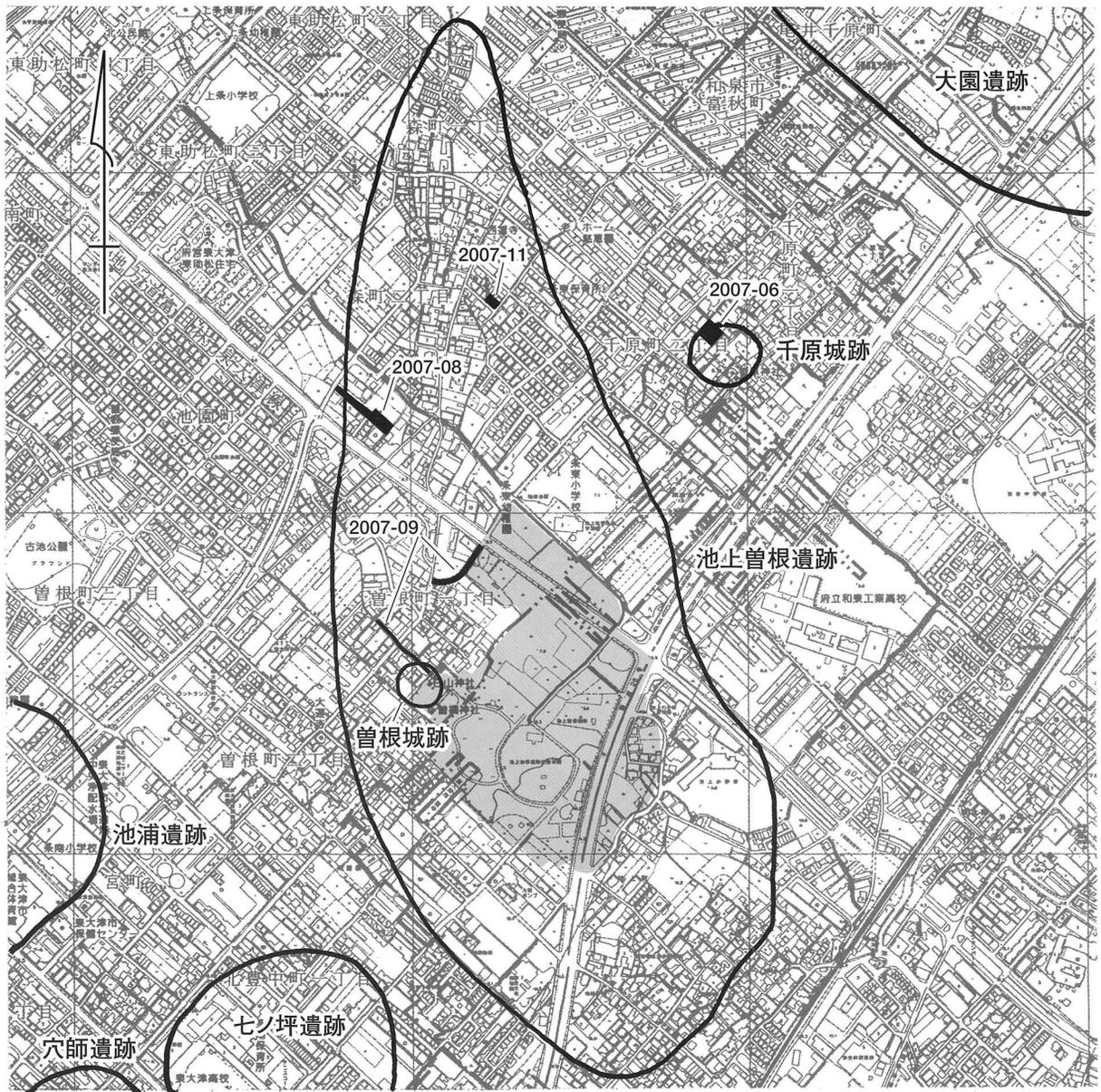
#### ○虫取遺跡

調査番号	所在地	用途	申請面積(m <sup>2</sup> )
2007-04	板原町1丁目289	宅地造成	979.64
2007-05	楠町西25-9、25-16	個人住宅	112.57

#### 4. 試掘確認調査位置図



第5図 穴師薬師寺跡・穴師小学校校庭遺跡・豊中遺跡・大福寺跡・七ノ坪遺跡 調査位置図 (1:10,000)



第6図 池上曾根遺跡・千原城跡 調査位置図 (1:10,000)

※  は国指定史跡範囲



## 第2章 試掘確認調査結果

### 1. 穴師薬師寺跡・穴師小学校校庭遺跡

遺跡は本市の南西部に位置する。穴師薬師寺は宝亀年間（770～781）に小津の浦に漂着した薬師如来木造を安置するため建立されたと伝わる。豊臣秀吉の根来攻めの際に兵火を受け次第に衰退、明治時代始めに廃寺となった。昭和47年、穴師小学校校舎建替えに先立ち大阪府教育委員会による緊急調査が行われた。後世の攪乱のため明確な遺構は確認されなかったが、平安時代末期の瓦が多数出土し、穴師薬師寺跡であることが確認された。また同小学校地内で工事中に弥生時代中期の甕、中世の陶質土器が出土し、穴師小学校校庭遺跡と名付けられた。

本年度は、個人住宅工事に先立ち1件の試掘確認調査を実施した。以下、その詳細を示す。

#### 2007-01地点（我孫子1丁目507、508の一部 平成19年1月23日調査）

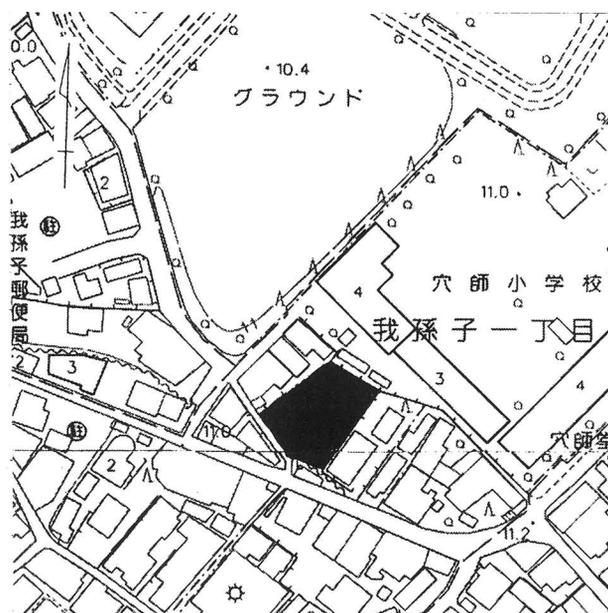
個人住宅建設に先立つ調査である。調査地は穴師小学校の西側に隣接していることから、穴師薬師寺の寺域内の可能性が考えられることから、試掘確認調査を実施した。構造物建築予定箇所に2本のトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

1T：地山直上の白灰色砂層から遺物細片がわずかに出土するが、細片で図化できない。

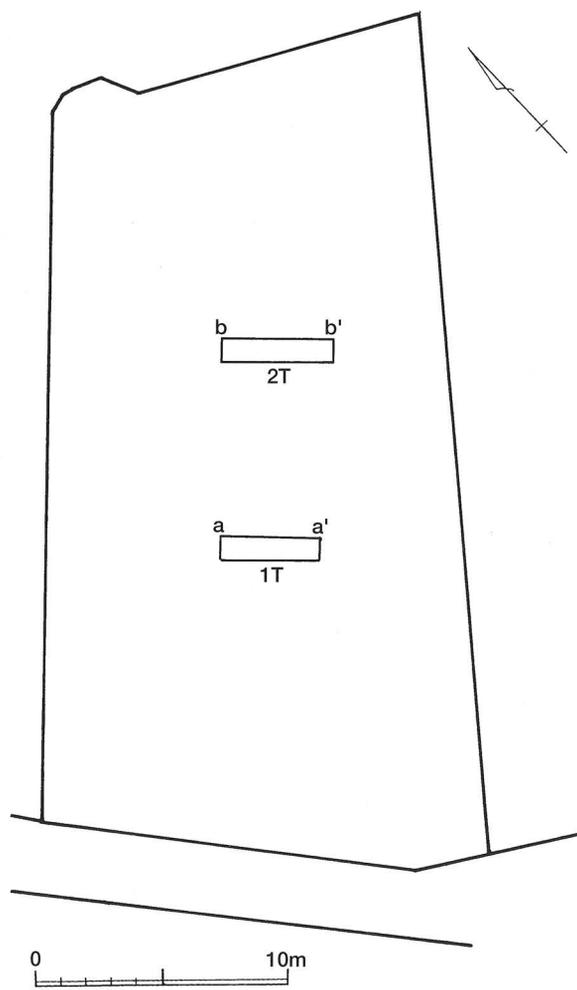
2T：地山直上に暗灰色粘土層が約10cm堆積し、少量の遺物を含んでいる。遺構の可能性を検討したが、地山上面に広く薄く堆積するため、包含層と判断した。明確な遺構は確認できない。

写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。

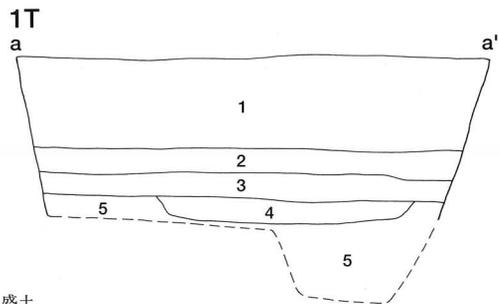
〈遺物〉1～4は高杯の脚部である。外面はタタキ技法で、内面はヘラ削り技法で成形されている。6は土師器小皿である。7は平瓦である。凹面には布目痕、凸面には縄目が残る。



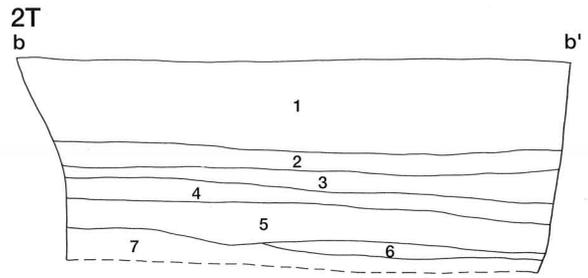
第8図 2007-01地点 調査位置図（1：2,500）



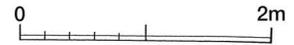
第9図 トレンチ位置図（1：300）



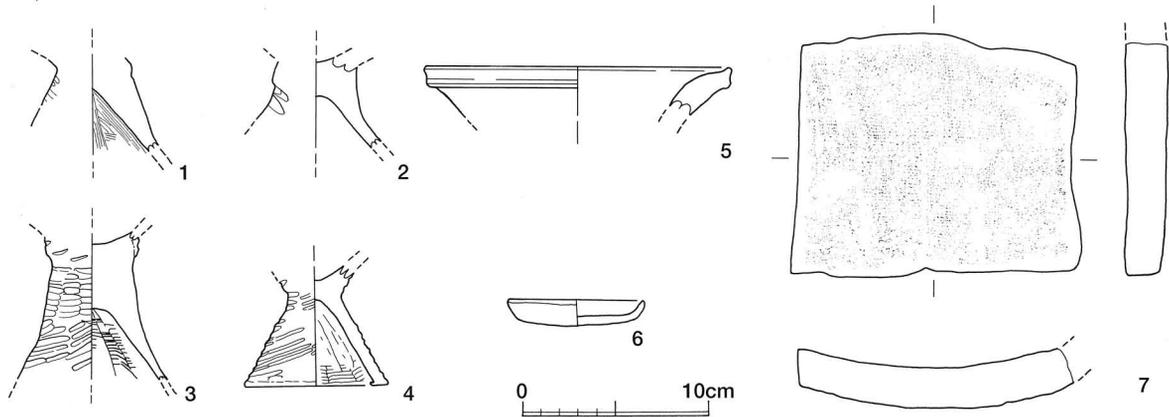
1. 盛土
2. 旧耕作土：暗灰色土（やや粘質、しまりなし）
3. 床土：明灰色土（しまる、小礫微量に混じる）
4. 白灰色砂（ややしまる、遺物含む）
5. 地山：灰色砂（直径15cmの礫多く混じる）



1. 盛土
2. 旧耕作土：暗灰色土（やや粘質、しまりなし）
3. 床土：明灰色土（しまる、小礫微量に混じる）
4. 明灰褐色粘土（ややしまる、酸化鉄多く含む）
5. 灰褐色粘土（ややしまる、炭化物少量混じる、遺物細片わずかに混じる）
6. 暗灰色粘土（ややしまる、炭化物多く混じる、遺物混じる）
7. 地山：灰色砂（5より荒い、直径15cmの礫多く混じる）



第10図 2007-01地点 トレンチ断面図（1：60）



第11図 2007-01地点 出土遺物（1：4）



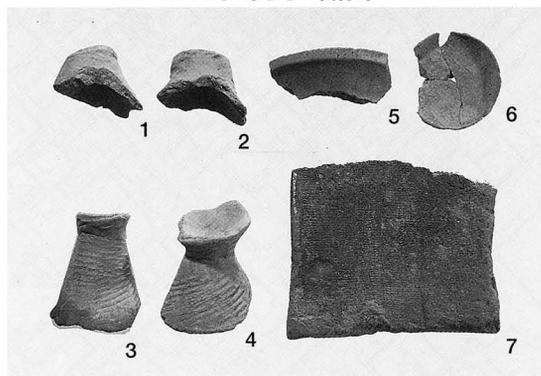
1T全景（北西から）



1T北東壁 断面



2T北東壁 断面



出土遺物

図版1 2007-01地点

## 2. 豊中遺跡・大福寺跡

豊中遺跡は本市北部に位置する。東西0.6km、南北1.2kmに広がり、遺跡のほぼ中心を国道26号線がはしり、東部から南部は和泉市域にまたがる。国道26号線付近からは古墳時代、泉大津中央線付近からは平安～中世の集落が確認されており、南北方向に流れる水脈上には複数の井戸が造られている。

大福寺跡は豊中遺跡の西部に重なり、縄文時代から中世までの複合遺跡である。この地には「大福寺」の字名が残り、周辺から平安時代後期の瓦が出土している。

本年度は、その他（自治会館）工事（1件）、宅地造成工事（1件）、下水道管渠掘削工事（1件）計3件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとにその詳細を示す。

### 2007-02地点（北豊中町2丁目989-5、989-6 平成19年1月25日調査）

当該地は豊中遺跡の西部に位置する。自治会館建設が予定されたため工事に先立って試掘確認調査を実施した。造物建築予定箇所にはトレンチ（幅1.2m×長さ8.2m）1本を設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

トレンチ北部で東西方向に河川跡を確認した。河川跡の下層から多量の遺物が出土したことから周辺に集落の存在が推定される。計画では遺構面を破壊する恐れがあったため、原因者との協議の結果、設計変更を行い遺構面より上層で開発を行うこととなった。写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。

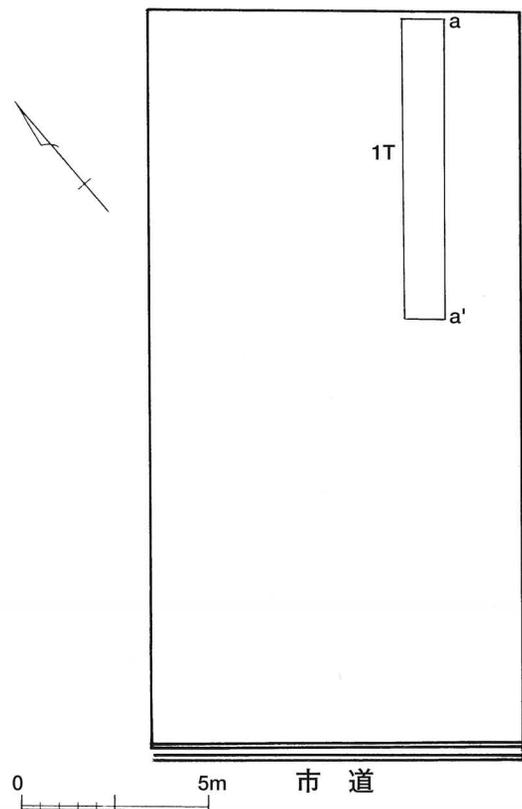
#### <遺物>

河川内より瓦質羽釜・すり鉢・皿・丸瓦、須恵器甕、土師質すり鉢、磨石が出土した。以下14点を図化する。

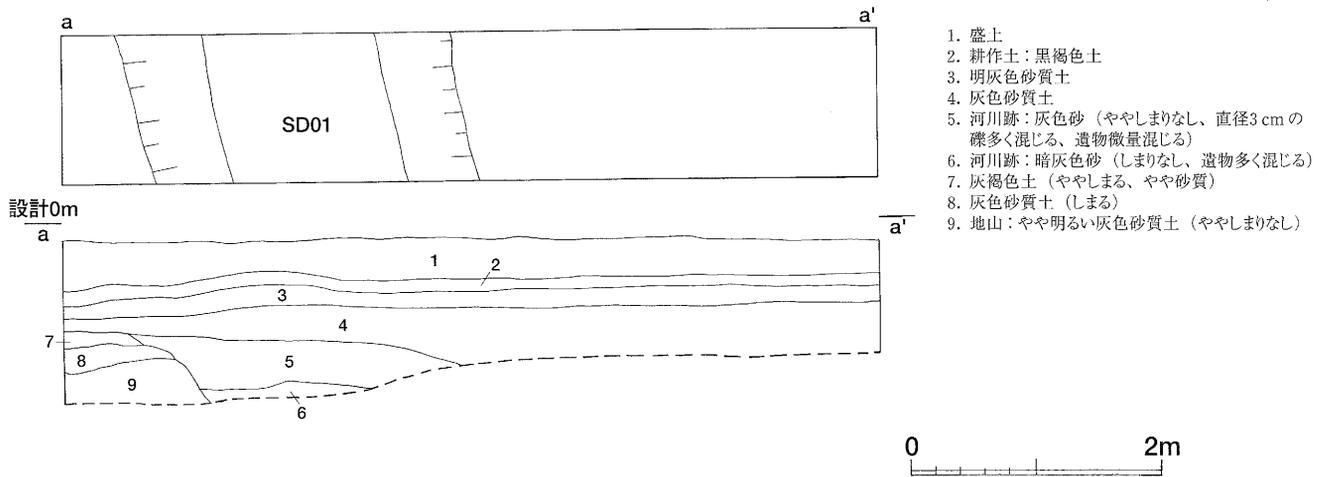
1～6は瓦質羽釜である。1～5の口縁部はやや内弯気味に内傾し、口縁端部は面を成す。口縁部外



第12図 2007-02地点 調査区位置図（1：2,500）

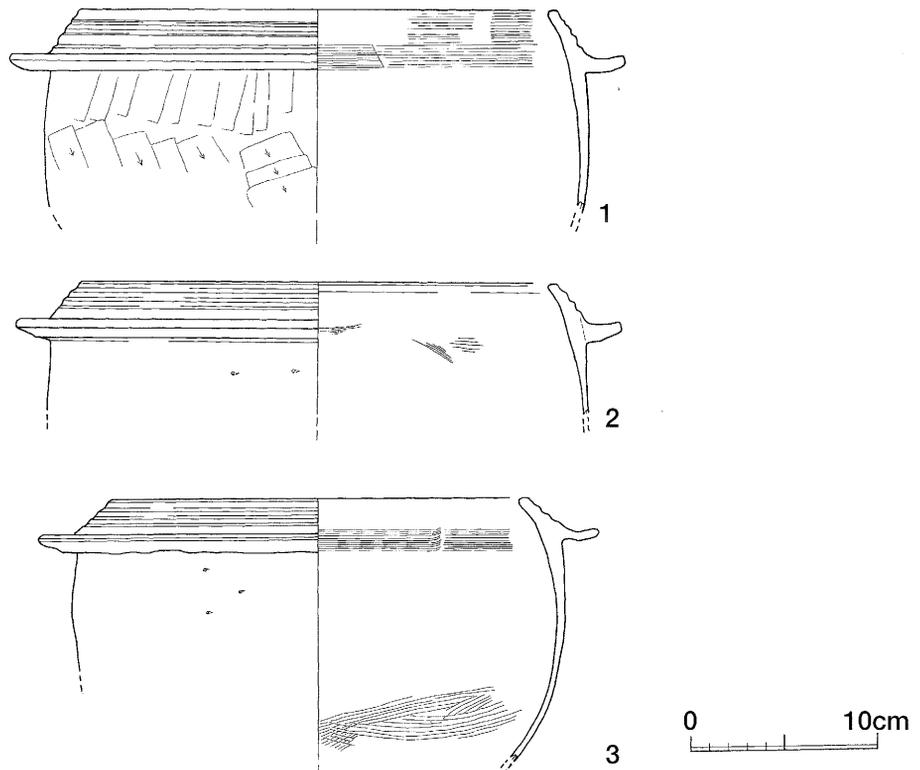


第13図 トレンチ位置図（1：200）

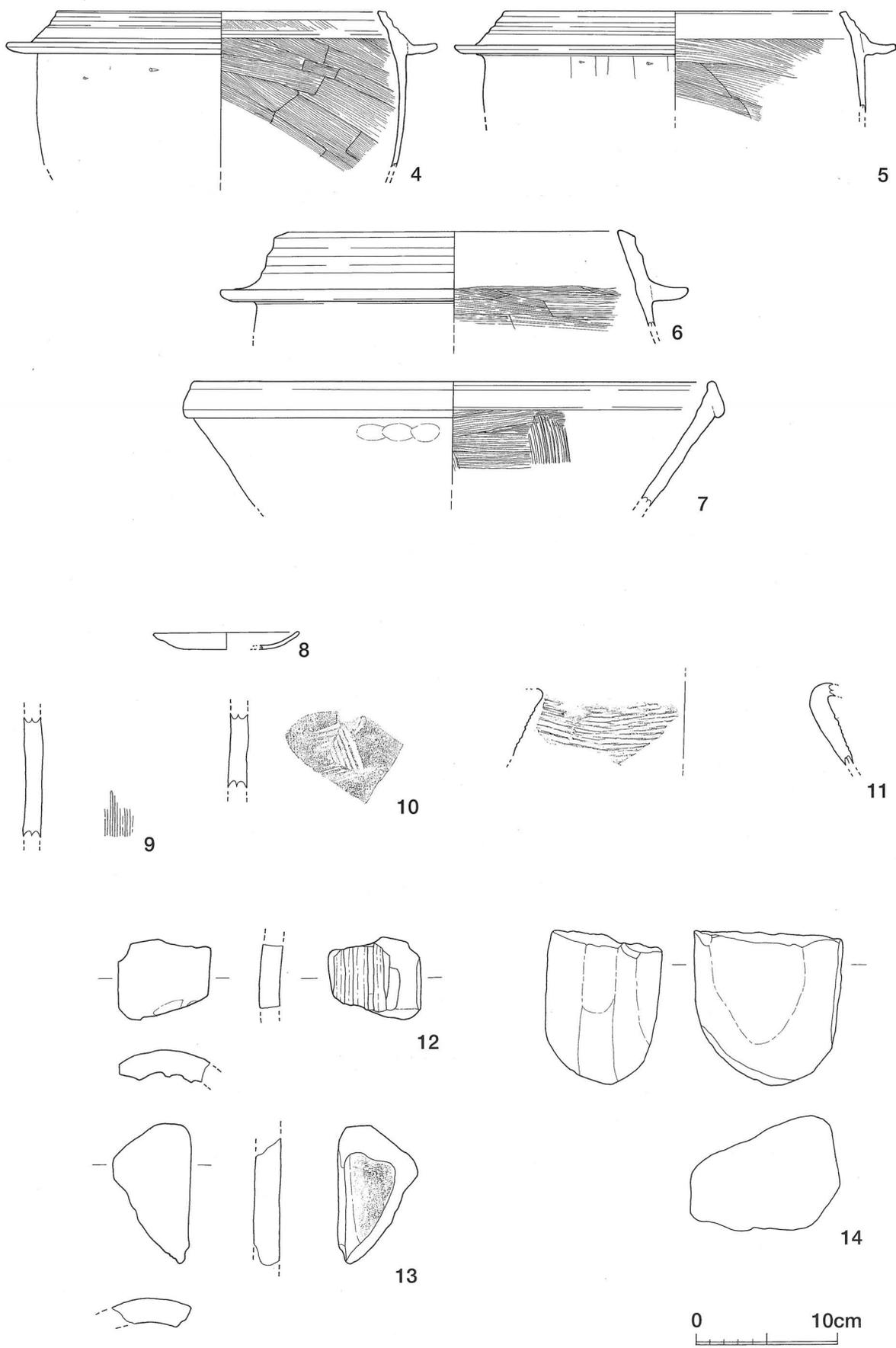


第14図 2007-02地点 トレンチ平面図・断面図（1：60）

面はヨコナデにより段を作り出す。体部外面は鏝下4分1に横方向のヘラ削り調整がなされ、底部にかけては斜め方向のヘラ削り調整がなされる。内面はハケ目を施している。7は瓦質すり鉢である。8は瓦器小皿である。9・10は陶質甕である。11は須恵器甕である。12・13は瓦質丸瓦である。14は磨石である。表面と側面の2面に磨痕が認められる。時期は不明である。



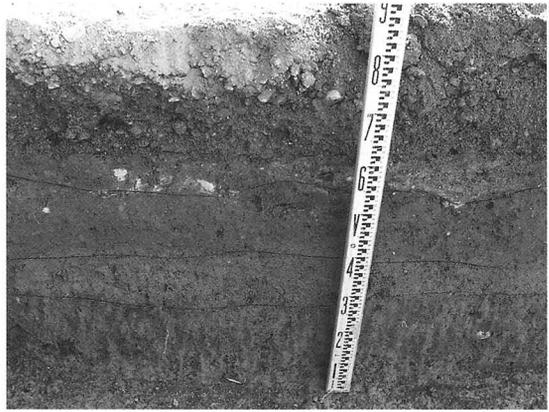
第15図 2007-02地点 出土遺物 実測図（1：4）（1）



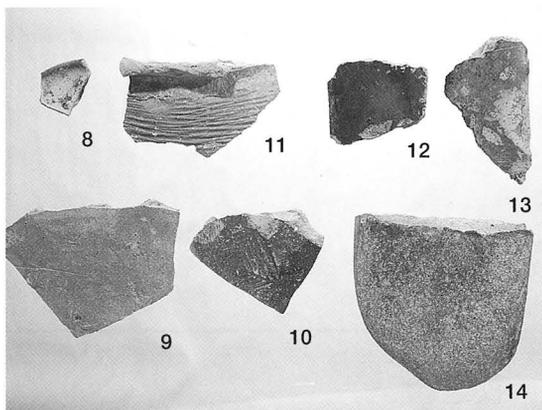
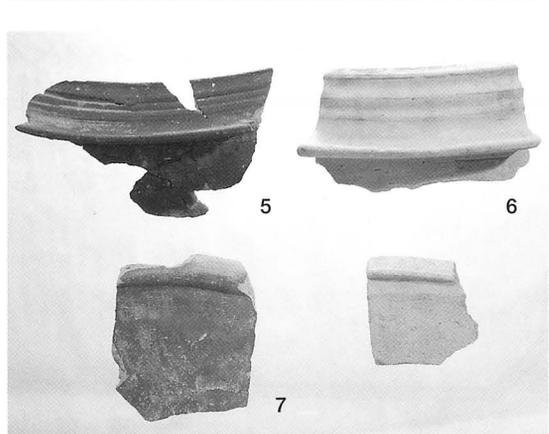
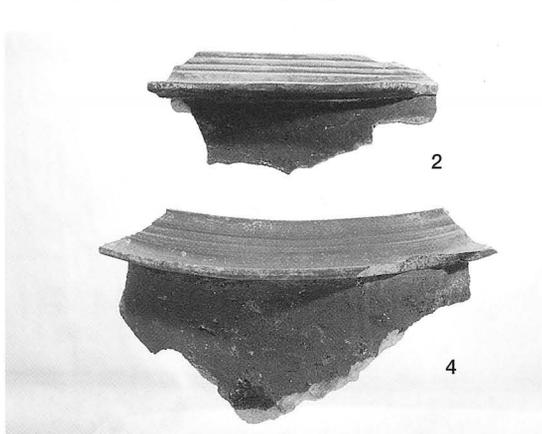
第16图 2007-02地点 出土遺物 実測図 (1:4) (2)



トレンチ全景 (南西より)



トレンチ東南壁断面



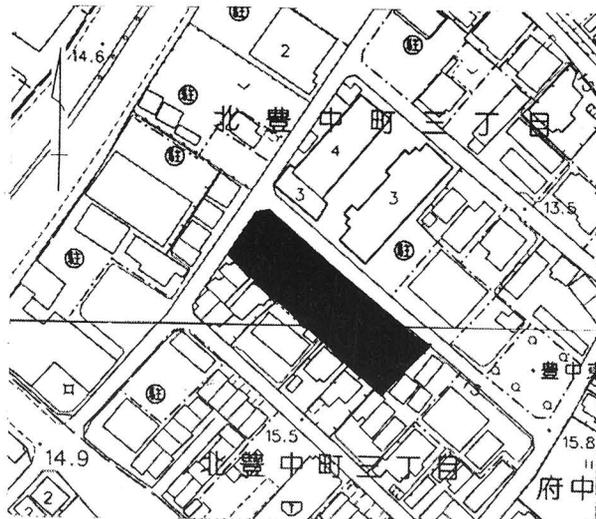
出土遺物  
図版2 2007-02地点

2007-10地点（北豊中町3丁目976番7、976番8の一部 平成19年8月3日調査）

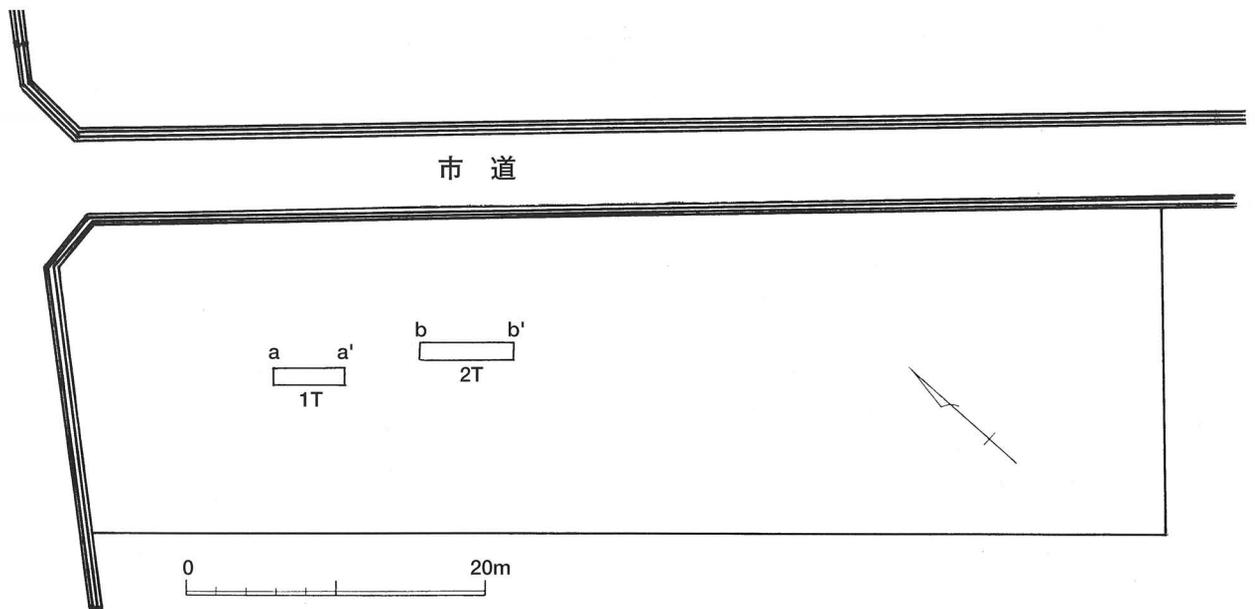
宅地造成に先立つ調査である。調査地は豊中遺跡東部に位置する。幅1m×長さ4.8m（1T）と、幅1m×長さ6.3m（2T）のトレンチ2本を設定し、重機にて掘削を開始しその後人力により調査を実施した。

現地表面である耕作土（1層）の下に整地土（2層）が20~30cm程度堆積する。2層は現代の区画整理による整地と考えられる。3層以下は河川跡と考えられる。5・6層から少量の土器片が確認されたが、小片のため図化できない。周辺からの流れ込みと考えられる。遺構は確認できない。

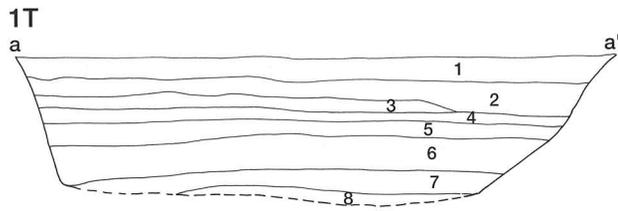
写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



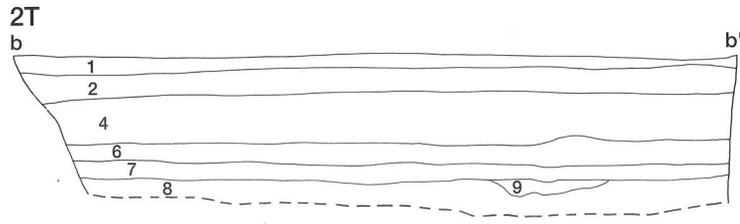
第17図 2007-10 調査位置図 (1:2,500)



第18図 トレンチ位置図 (1:500)



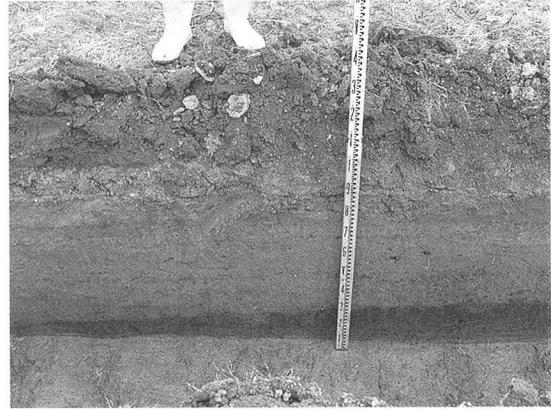
1. 表土：黒褐色粘質土
2. 整地土：黄橙色粘質土
3. 明褐色土（しまる）
4. 明灰色土（しまる、酸化鉄やや多く含む）
5. 黄灰色土（しまる、遺物細片わずかに混じる）
6. 灰色粘土（しまる、遺物細片わずかに混じる）
7. 黒灰色粘土（しまる）
8. 明灰褐色粘土（しまる）
9. 灰色粘土（しまる）



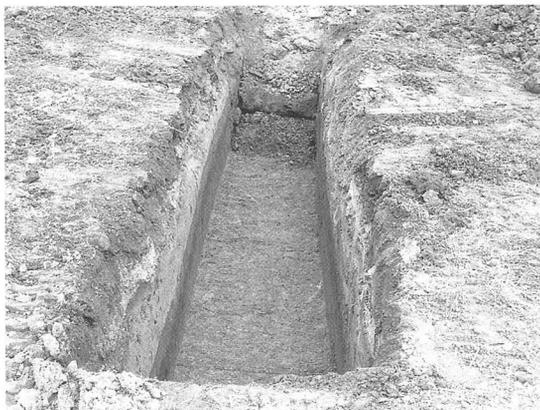
第19図 2007-10地点 トレンチ断面図（1：60）



1T 全景（西から）



1T 北壁断面



2T 全景（東から）



1T 北壁断面

図版3 2007-10地点 トレンチ断面図（1：60）

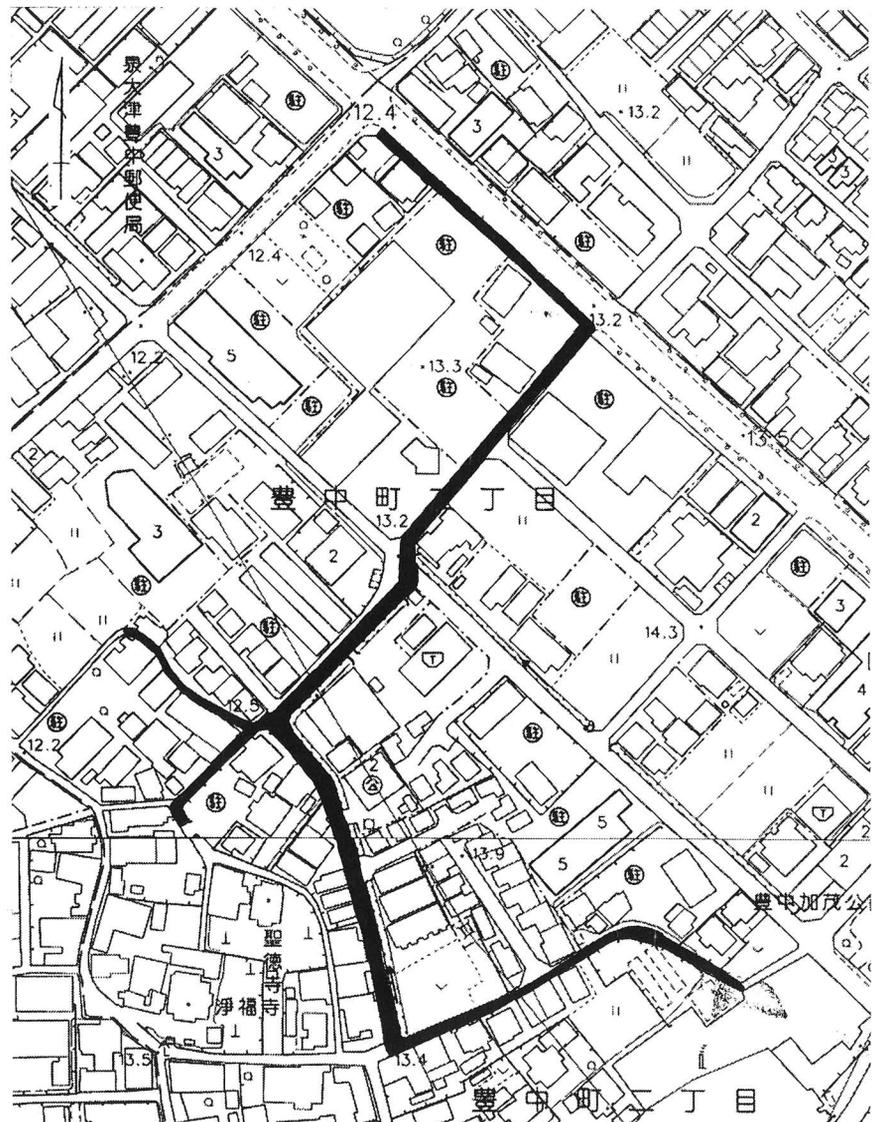
## 2007-12地点（豊中町2丁目地内 平成19年11月26日～29日調査）

大福寺跡と豊中遺跡の北西部に位置する。下水道管渠掘削工が予定されたため、工事に先立って試掘確認調査を行った。工事範囲は市道635.9mの範囲に幅約1m、深さ150～180cmの溝状の予定である。調査は遺跡範囲の確認と、土層観察、出土遺物採集に主眼を置いた。工事範囲内に幅1mのトレンチを4本設定（1～4 T）し重機にて掘削を開始、その後人力により調査を実施し、断面図・平面図作成・写真撮影などの記録を行った。

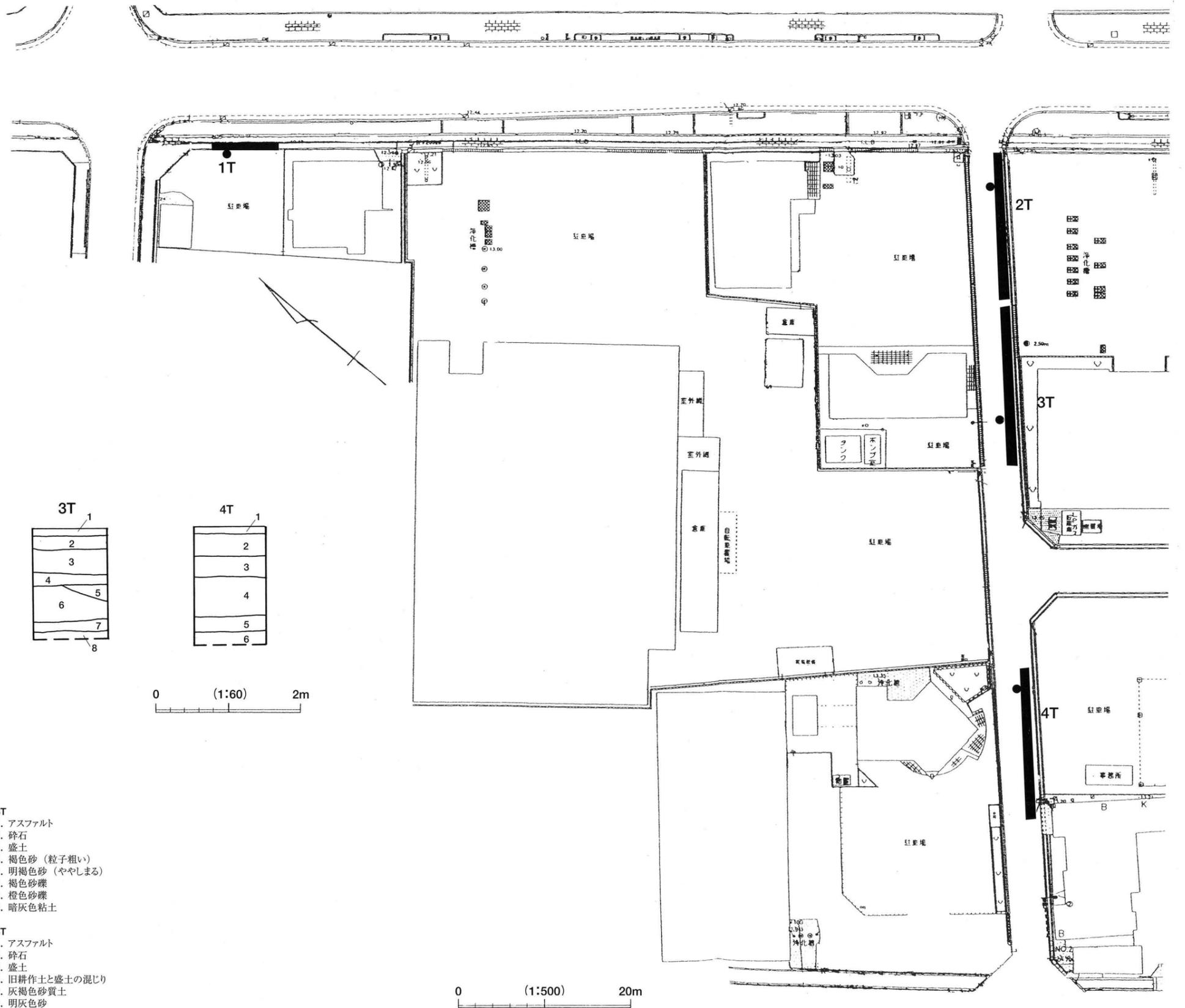
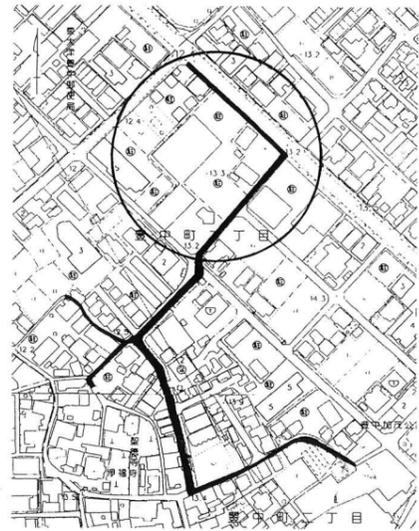
全体で60.9㎡の調査を行った。概すると、現地表面から約40～100cmは現代の整地土である。一部からは旧耕作土が確認できたが、大半は現代の区画整備による整地により削平されていた。調査地一帯は中世の頃まで、南から北に向かう河川地帯であったようである。調査区周辺はこれまでの調査で古墳時代前期の竪穴住居や平安末～中世の井戸が確認されている。今回の調査では包含層から少量の遺物が確認されたものの、遺構は2 Tより土坑が1基確認されたのみである。

〈遺物〉以下4点を図示する。1は弥生土器・広口壺の口縁部である。2は古式土師器・長頸壺の口縁部である。3は高杯である。

4は瓦器碗である。内面は全体に密にヘラミガキが施され、外面のヘラミガキの緻密性はやや薄れる。



第20図 2007-12地点 調査位置図 (1:2,500)



1T

- 1. レンガブロック
- 2. 盛土
- 3. 明褐色シルト
- 4. 灰色粘土 (暗灰色粘土混じる、遺物わずかに混じる)

2T

- 1. アスファルト
- 2. 砕石
- 3. 旧耕作土: 暗灰色粘土
- 4. 盛土
- 5. 床土: 明灰色シルト
- 6. 床土: 明灰褐色シルト
- 7. SK: やや赤い褐色砂 (酸化鉄多く混じる、遺物含む)
- 8. 褐灰色 (酸化鉄多く混じる)
- 9. 地山: 明灰褐色砂

3T

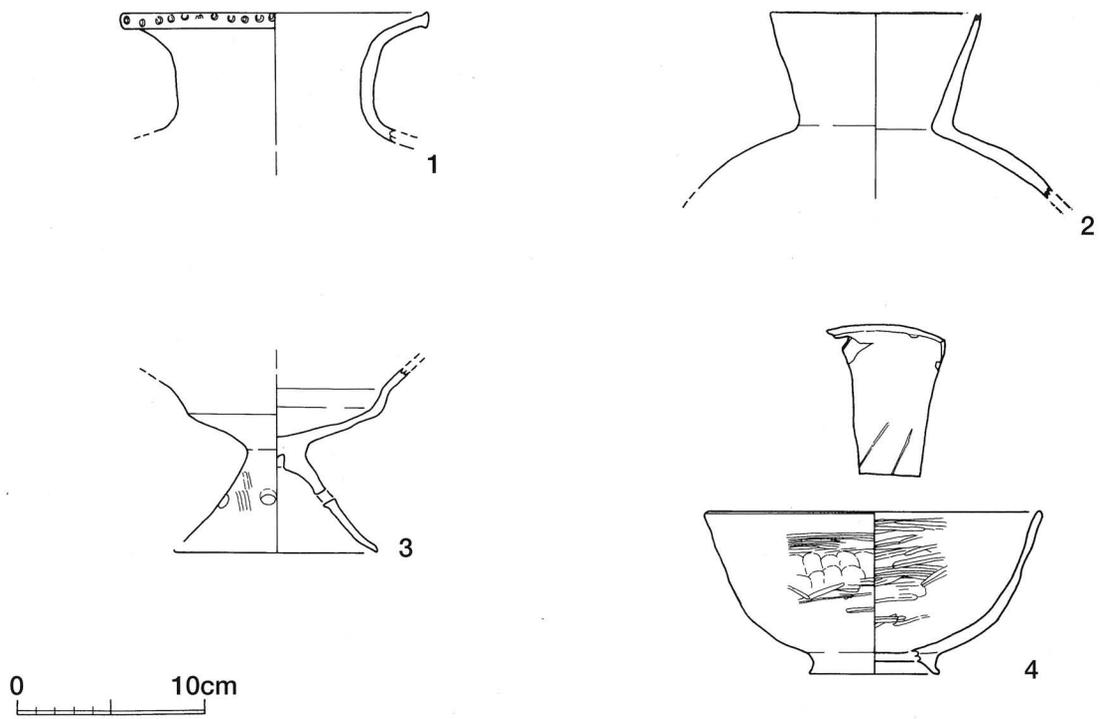
- 1. アスファルト
- 2. 砕石
- 3. 盛土
- 4. 褐色砂 (粒子粗い)
- 5. 明褐色砂 (ややしまる)
- 6. 褐色砂礫
- 7. 橙色砂礫
- 8. 暗灰色粘土

4T

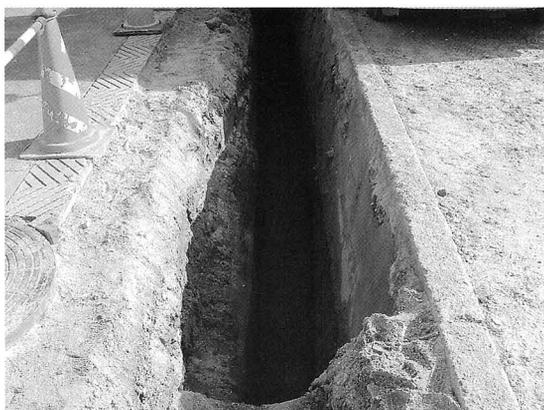
- 1. アスファルト
- 2. 砕石
- 3. 盛土
- 4. 旧耕作土と盛土の混じり
- 5. 灰褐色砂質土
- 6. 明灰色砂

第21図 2007-12地点 トレンチ位置図・断面図





第22図 2007-12地点 出土遺物実測図 (1:4)



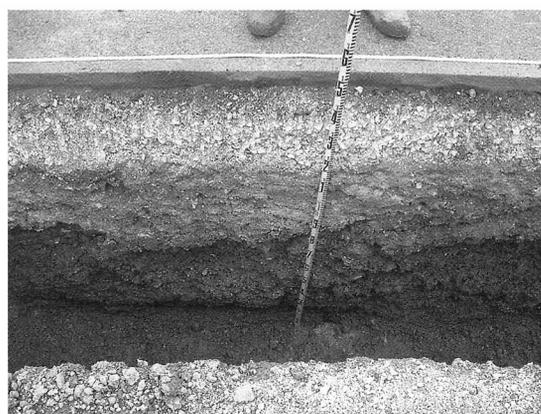
1T 全景 (北から)



1T西壁断面



2T 全景 (北東から)



2T 西壁断面

図版4 2007-12地点 (1)



3T 全景 (北東から)



3T 西壁断面



4T 全景 (北東から)



4T 西壁断面



出土遺物

図版5 2007-12地点 (2)

### 3. 七ノ坪遺跡

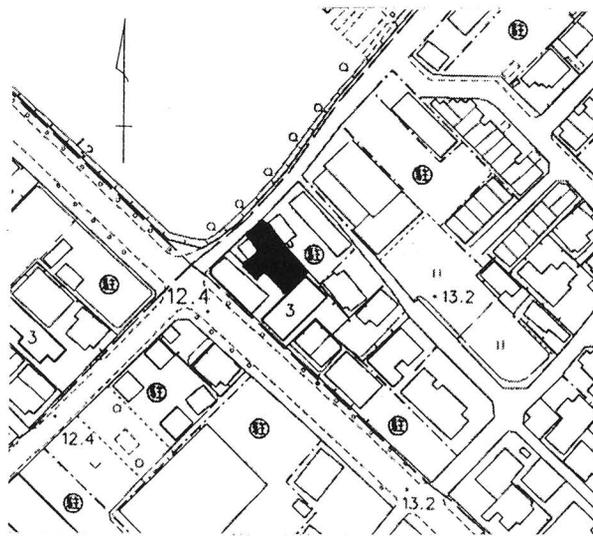
遺跡は北豊中町1丁目、2丁目一帯に所在する。府立泉大津高校の地歴部員による土師器壺採集が遺跡発見の契機となり、小字を遺跡名とした。昭和43年、同高校の校舎改築工事に先立つ発掘調査で、弥生時代の土壙墓と河川が、昭和47年の同校内の調査では、古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓・木棺直葬墓などが、また昭和57年の調査では和泉地区では最初の水田跡の発見があり、弥生時代～古墳時代にわたって生産活動が行われていたことが確認された。中世の遺構としては井戸・溝・柱穴・土壙などがある。いずれも泉大津高校内が遺跡の中心部である。

#### 2007-03地点(北豊中町2丁目464-1の一部、464-12 平成19年3月1日調査)

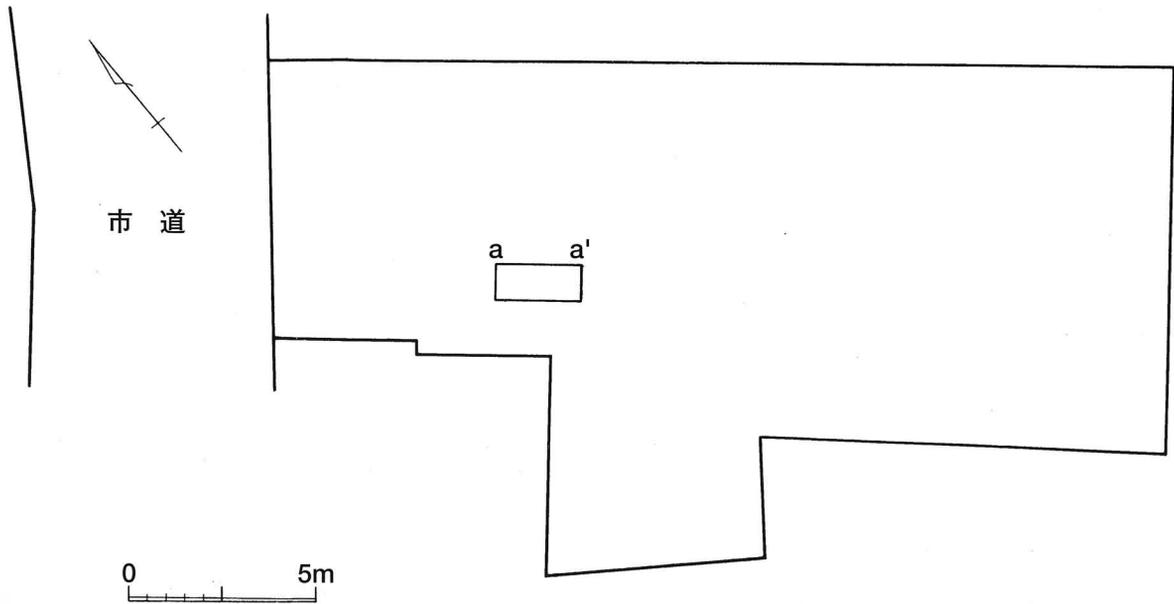
個人住宅建設に先立つ調査である。遺跡の南端に位置し、豊中遺跡・大福寺跡に隣接する。敷地中央部に幅1m、長さ2.3mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

現地表面から20cm程度は耕作土である。その下に床土である灰色砂質土が堆積する。その下に明灰色砂質土、暗灰色粘土層が堆積する。暗灰色粘土層は自然流路跡もしくは沼跡であろう。

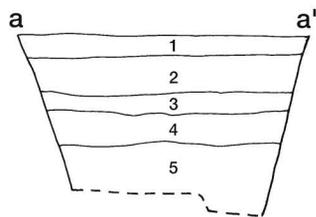
当該地は古墳時代の集落・水田跡が確認された泉大津高校に隣接することから、遺構が存在する可能性が高いと思われたが、残念ながら遺構・遺物は確認できなかった。写真撮影・図面作成などを行い、調査終了とした。



第23図 2007-03地点 調査位置図(1:2,500)



第24図 トレンチ位置図 (1:200)



1. 旧耕作土：暗灰色粘質土（しまりなし）
2. 旧床土：灰色砂質土（ややしまる、酸化鉄多く混じる、直径5～10mmの小石が少量混じる）
3. 明灰色砂質土（しまりなし、橙色土40%程度混じる）
4. 明灰色砂質土（しまりなし）
5. 暗灰色粘土（ややしまりなし、炭化物微量混じる）



第25図 2007-03地点 トレンチ断面図 (1:60)



トレンチ全景（西から）



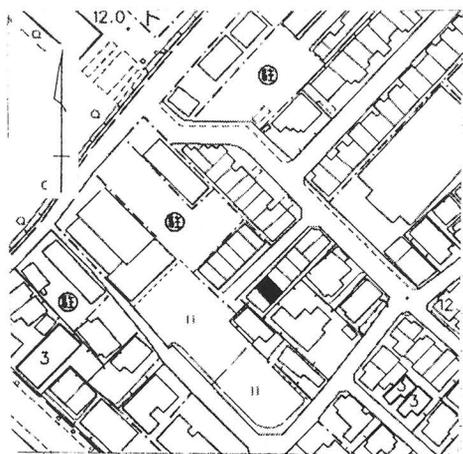
トレンチ断面（北から）

図版6 2007-03地点

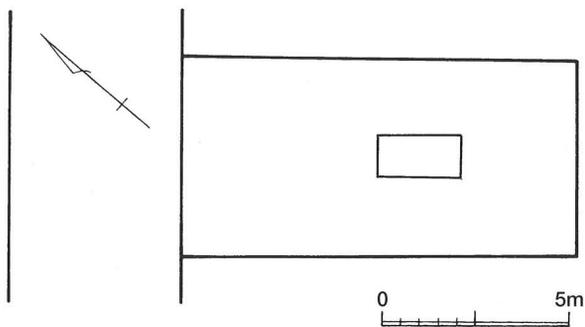
2007-07地点 (北豊中町2丁目475-7 平成19年4月24日調査)

個人住宅建設に先立つ調査である。遺跡の南端に位置し、豊中遺跡に隣接する。敷地中央部に、幅1.1m、長さ2.3mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

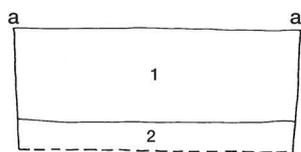
現地表面から約80cmは盛土である。昭和50年代に行われた宅地造成工事でなされたと考えられる。盛土直下に旧耕作土が確認された。工事は盛土内でおさまることを確認し、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



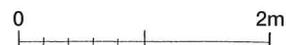
第26図 2007-07地点 調査位置図  
(1 : 2,500)



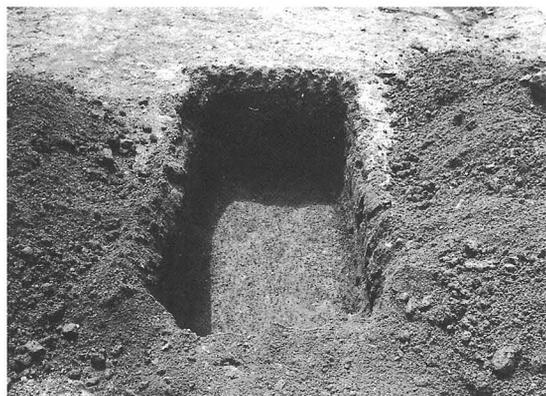
第27図 2007-07地点 トレンチ位置図 (1 : 200)



- 1. 盛土
- 2. 旧耕作土：暗灰色粘質土



第28図 2007-07地点 トレンチ断面図 (1 : 60)



トレンチ全景 (北から)



トレンチ東壁断面

図版7 2007-07地点

## 4. 池上曾根遺跡

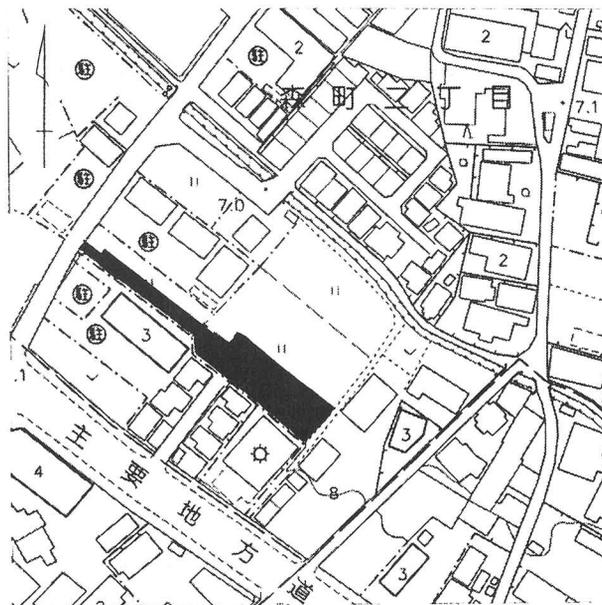
池上曾根遺跡は本市曾根町と和泉市池上町に所在する。遺跡範囲が約105ヘクタールの広大な遺跡である。うち約11.5ヘクタールが国の史跡に指定され、3.5ヘクタールが第一期整備を経て史跡公園となっている。本市域における遺跡の範囲は、曾禰神社以西から森町・千原町の一部を含み、南北に広がる。史跡指定地域以外の地域は旧村落と昭和40年代以降の開発部分が混在しており、小区画の開発が多く大規模な調査は行われていない。そのため、史跡指定地域となっている遺跡の中心部構造に比べ、周辺部は不明な点が多い。本年は共同住宅1件、下水道管渠掘削工事1件、個人住宅1件、計3件の試掘確認調査を実施した。以下、調査地点ごとに詳細を示す。

### 2007-08地点（森町2丁目194-1、199-1、201-2 平成19年6月28日調査）

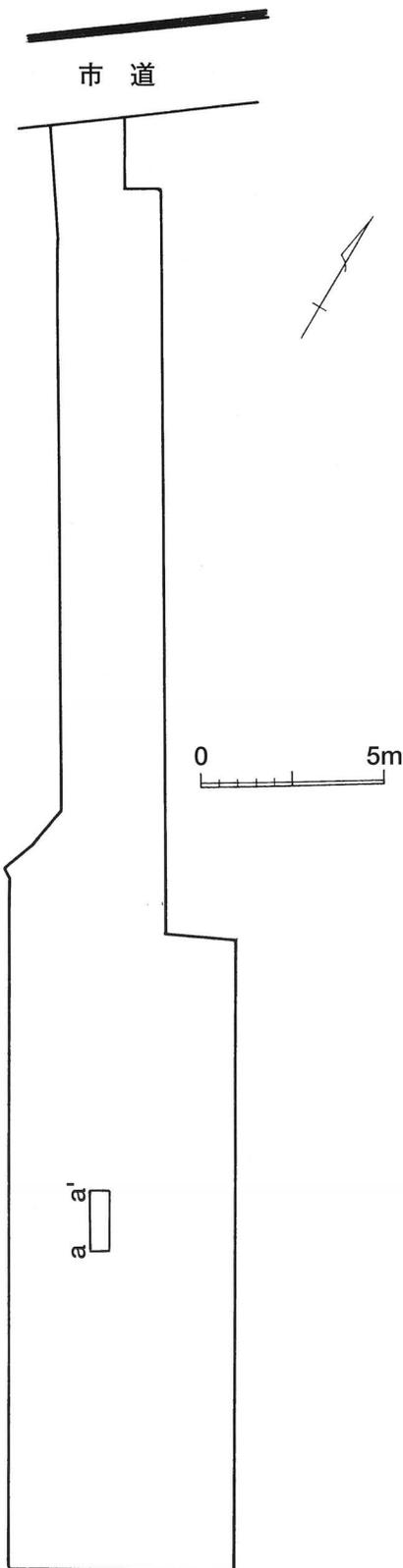
共同住宅建設に先立つ調査である。調査地は池上曾根遺跡の西部に位置する。幅1.4m、長さ4.1mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

現地表面である水田耕作土、床土の下に包含層である灰色粘質土、地山の灰色砂が堆積する。灰色砂は南から北に向かって低くなる。包含層の灰色粘質土層より、少量の遺物細片が出土したが、細片のため詳細は不明である。

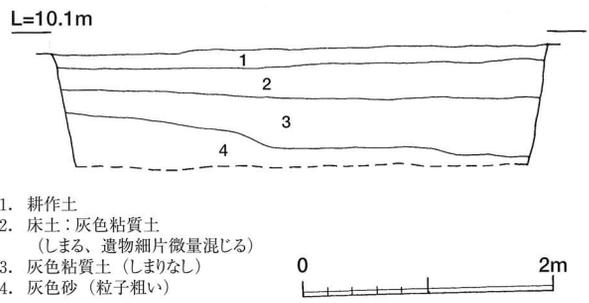
明確な遺構は確認されなかったため写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第29図 2007-08地点 調査区位置図 (1:2,500)



第30図 2007-08地点 トレンチ位置図  
(1 : 200)



1. 耕作土
2. 床土：灰色粘質土  
(しまる、遺物細片微量混じる)
3. 灰色粘質土 (しまりなし)
4. 灰色砂 (粒子粗い)

第31図 2007-08地点 トレンチ断面図 (1 : 60)



トレンチ全景 (東から)



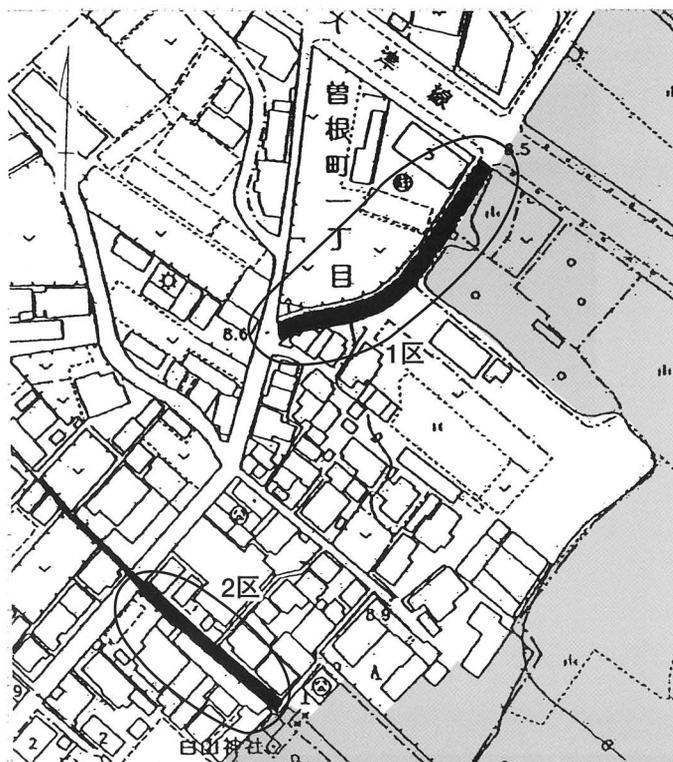
トレンチ北壁断面図

図版8 2007-08地点

2007-09地点 (曾根町1丁目地内 平成19年7月2日～9月27日調査)

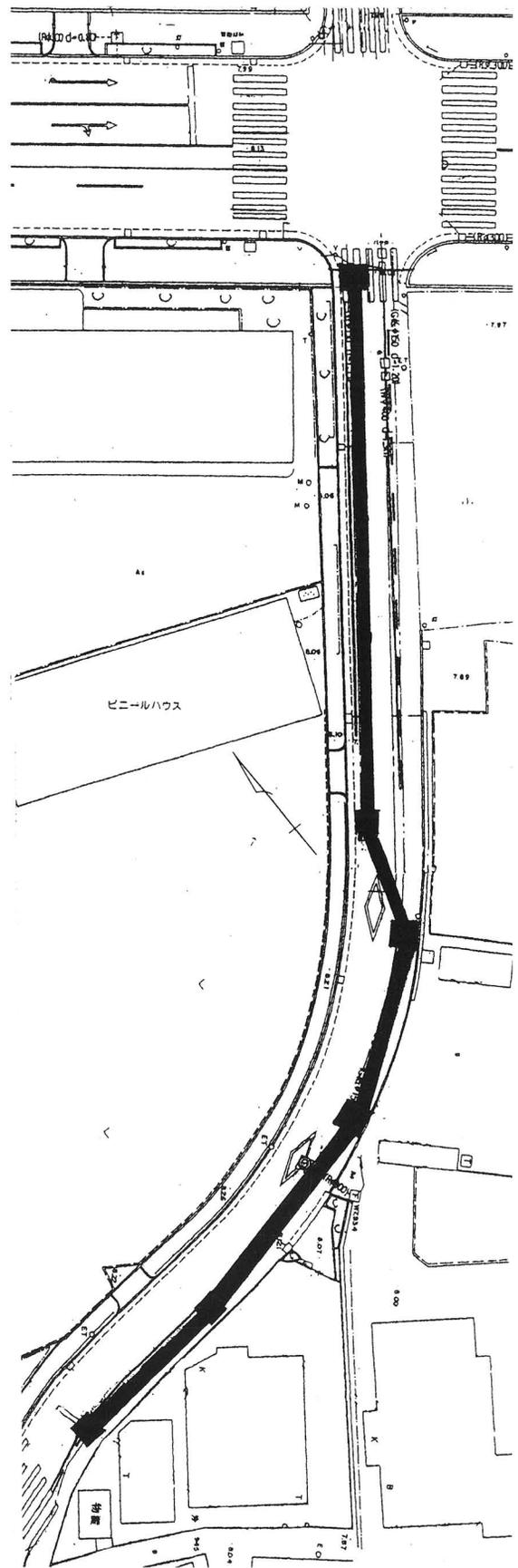
当該地は池上曾根遺跡の史跡地の西部に隣接する。下水道管渠掘削工事が予定されたため、工事に先立って試掘確認調査を行った。工事範囲は203.9mの範囲に幅約100cm、深さ約150～180cmの溝状の予定である。調査は遺跡範囲の確認と土層観察、出土遺物採集に主眼を置いた。工事予定範囲を2区に分け、1区は工事範囲全体を、2区は3本のトレンチを設定し、重機にて掘削しその後人力により調査を実施した。

- 1区 現地表面から80cm～110cm地点に遺構面が確認される。調査区内から古墳時代溝、中世井戸・中世土坑が確認された。また周辺は幾筋もの自然流路が流れていたと推測される。
- 2区 環濠の検出が期待されたが、遺構は確認されなかった。写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。

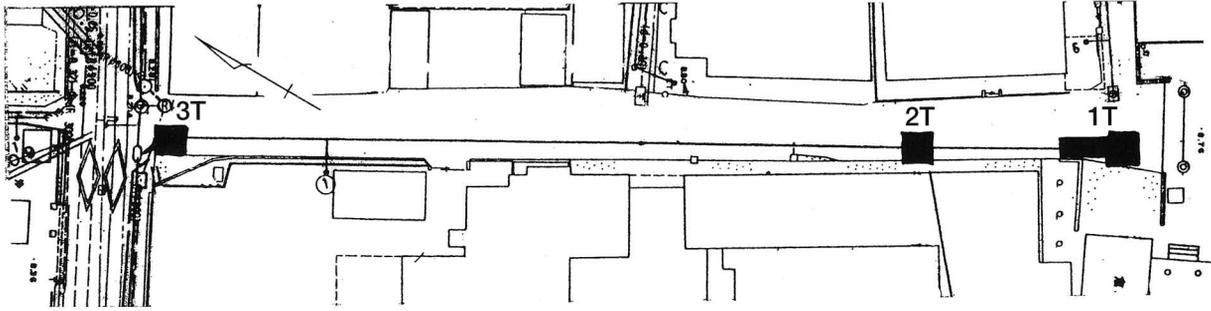


第32図 2007-09地点 調査位置図 (1:250)

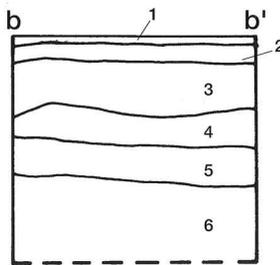
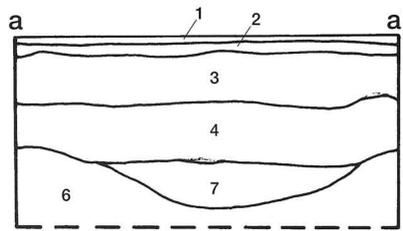
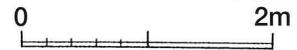
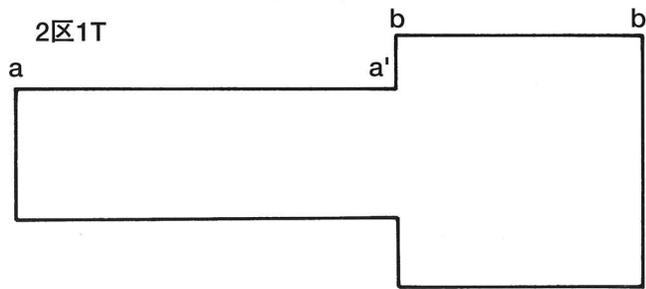
※ は国指定史跡範囲



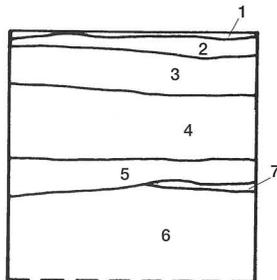
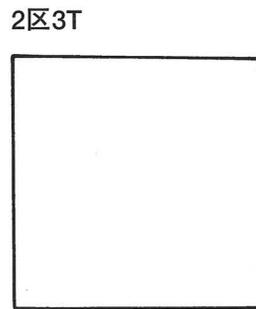
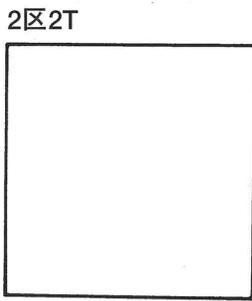
第33図 1区トレンチ位置図 (1:500)



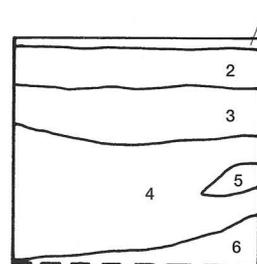
第34図 2区 トレンチ位置図 (1:500)



- 1T
1. アスファルト
  2. 碎石・盛土
  3. 褐色土 (ややしまる、瓦など現代の遺物混じる)
  4. 橙色粘質土 (暗灰色粘質土 30~40%混じる)
  5. 黒色粘質土 (ややしまる、炭化物微量混じる、遺物やや混じる)
  6. 5と淡褐色粘土の混じり (しまる、遺物やや混じる)
  7. 灰色粘土 (ややしまる)

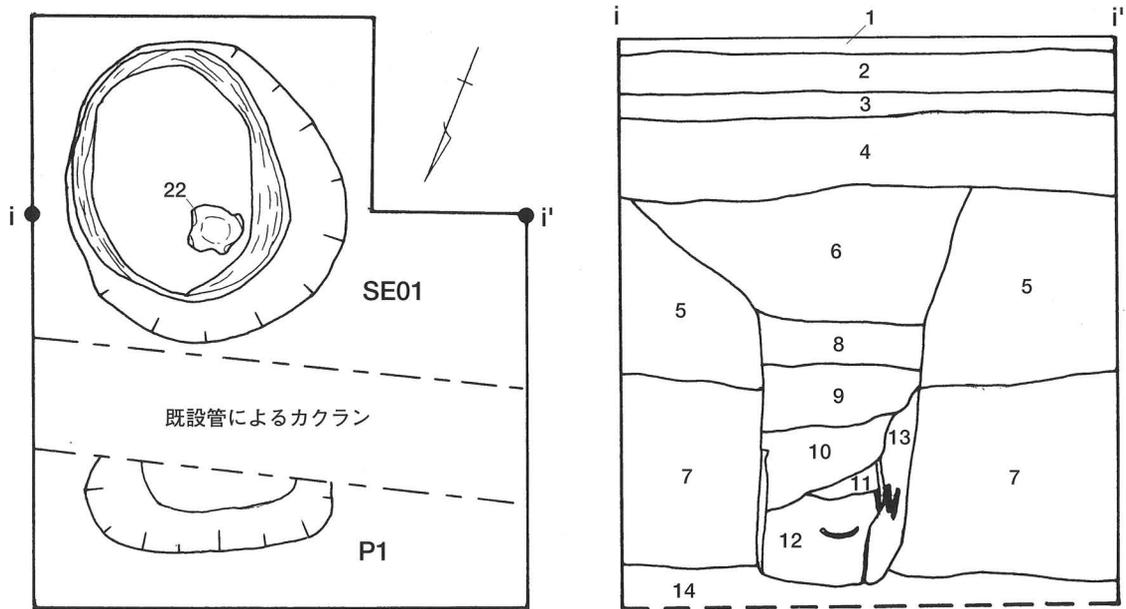


- 2T
1. アスファルト
  2. 碎石・盛土
  3. 褐色土 (ややしまる、瓦など現代の遺物混じる)
  4. 褐色砂質土 (ややしまる)
  5. 明灰色砂質土 (ややしまりなし)
  6. 灰色砂と礫の混じり
  7. 灰色粘土



- 3T
1. アスファルト
  2. 碎石・盛土
  3. 褐色土 (ややしまる、瓦など現代の遺物混じる)
  4. 灰色粘質土 (しまりなし、遺物少量混じる)
  5. 褐色砂 (しまりなし)
  6. 地山: 灰褐色砂 (ややしまる)

第35図 2区 トレンチ断面図 (1:60)



- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1. アスファルト                 | 8. 淡褐色砂質土         |
| 2. 碎石                     | 9. 暗灰色粘土 (遺物少量含む) |
| 3. 整地土：褐色土                | 10. 黒色粘土 (しまる)    |
| 4. 暗灰色粘質土                 | 11. 灰色砂質土         |
| 5. 明淡褐色砂質土                | 12. 黒色粘土          |
| 6. 暗灰褐色粘質土 (遺物含む、炭化物やや含む) | 13. 明灰色砂質土        |
| 7. 灰色粘質土                  | 14. 灰色砂           |

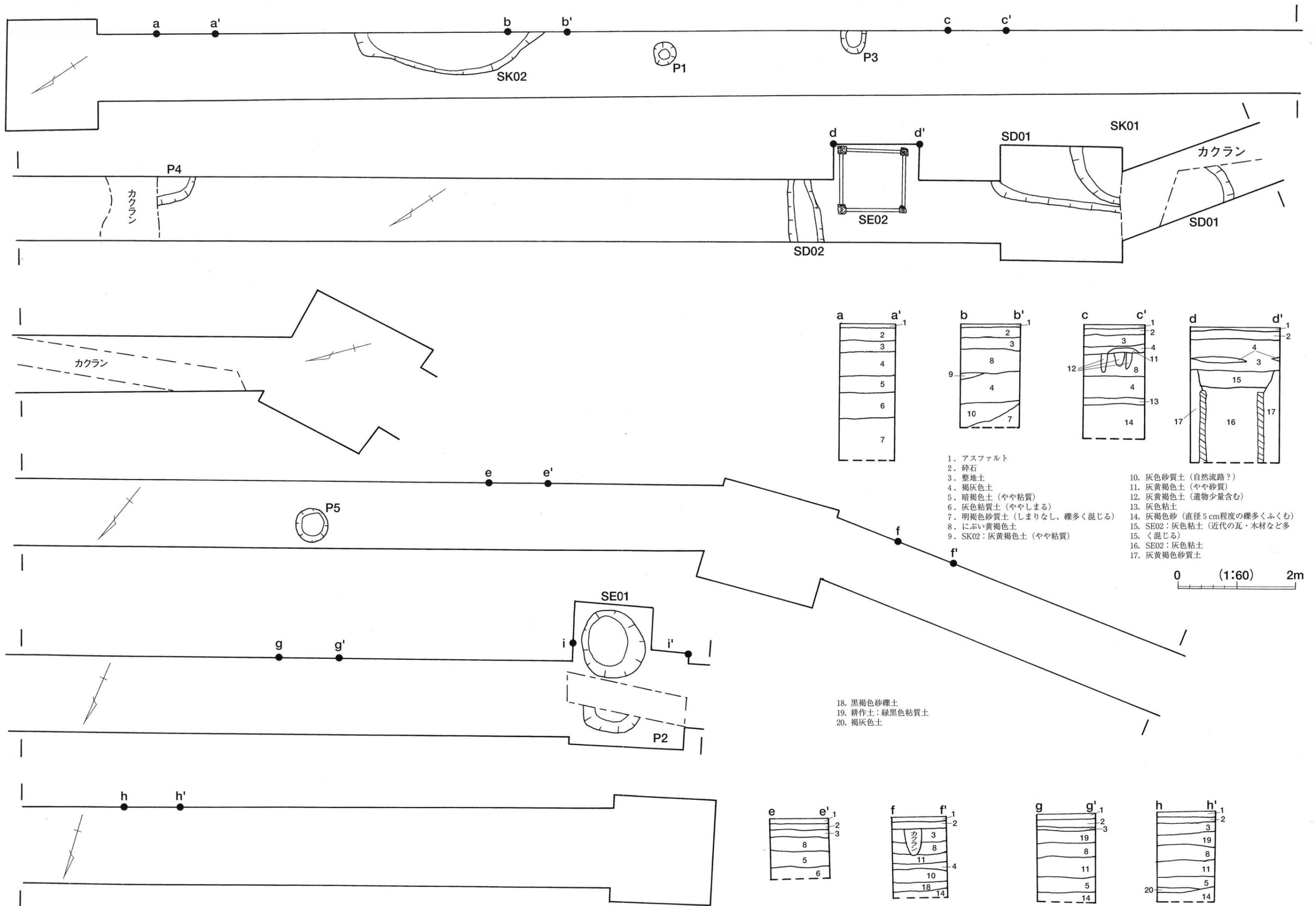
第36図 SE01 出土図・断面図 (1:30)

〈遺構〉 SE01

掘方の直径約60cm深さ150cmの井戸である。直径約50cmの木製の曲げ物を複数重ねて井戸枠としている。高さ約25cmの曲物を2段に重ねていると考えられるが、曲物の劣化が激しく、正確な個体数は確認できなかった。内部から瓦器碗が出土した。

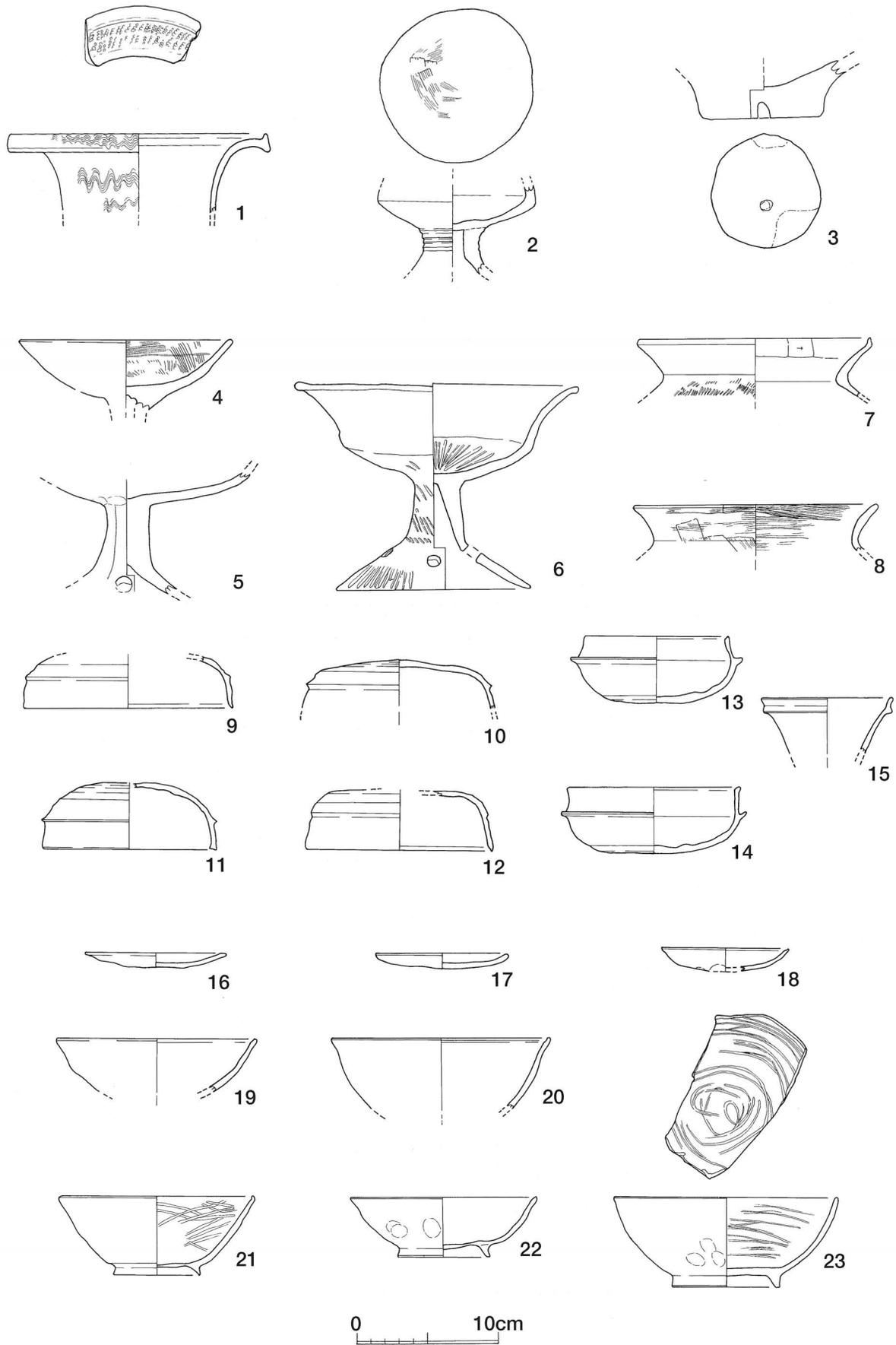
〈遺物〉

27点を図示する。1～4は弥生土器である。1は広口壺の口縁部で、口縁端部は外側に折れ曲がるように面をなす。口縁部・頸部の外面には櫛描波状文が施される。2は台付壺である。脚部には3条の沈線が施される。3は甕の底部である。表面は磨耗し、調整は明らかではない。底部に直径5mm程度の孔が穿たれる。4～6は古式土師器の高杯である。6は内外面ともにヘラミガキ調整がなされ、脚部には穿孔が4箇所形成される。8は須恵器甕である。9～14は須恵器杯蓋・杯身である。5世紀後半に比定されよう。16～18は土師器皿である。19～23は瓦器碗である。24は土錘である。時期は不明である。25は土師質十能である。28～30はSE01出土の木製品曲物である。3点すべてが別個体である。内面は約1cm幅で切り込みが入れられている。底部はいずれも外されているが、側板の下部に側板を留めた木の釘がほぼ等間隔に残っている。30は合わせ目を綴じた桜の樹皮が残っている。

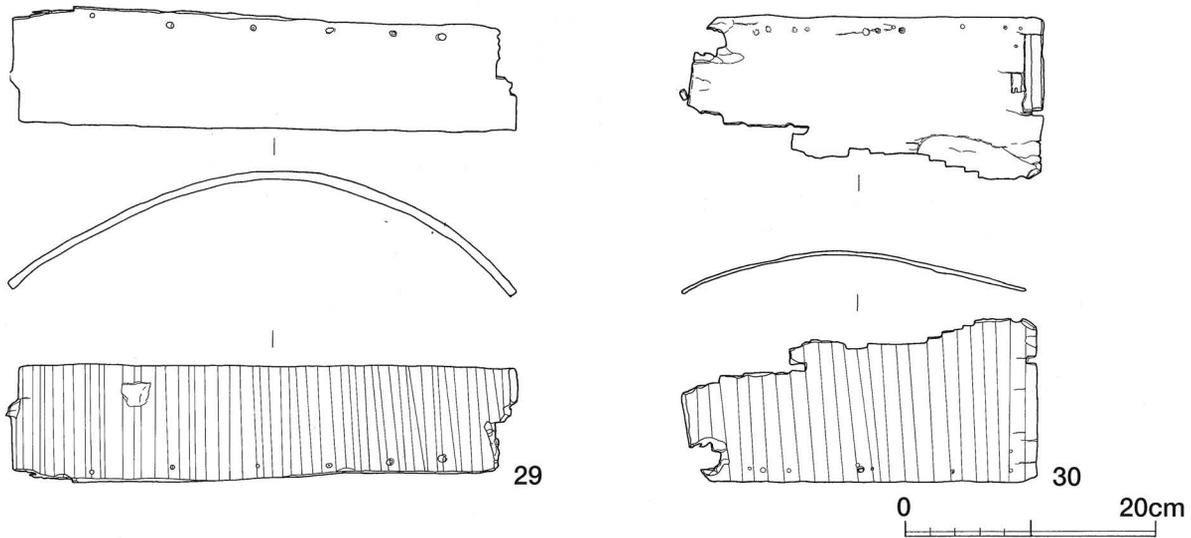
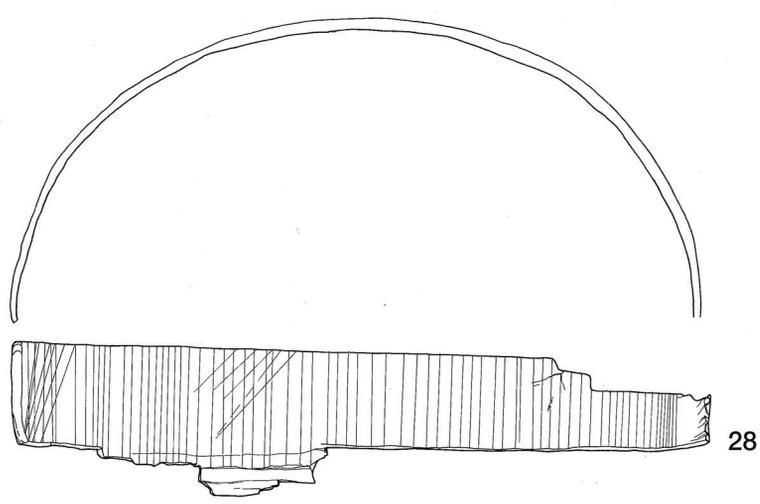
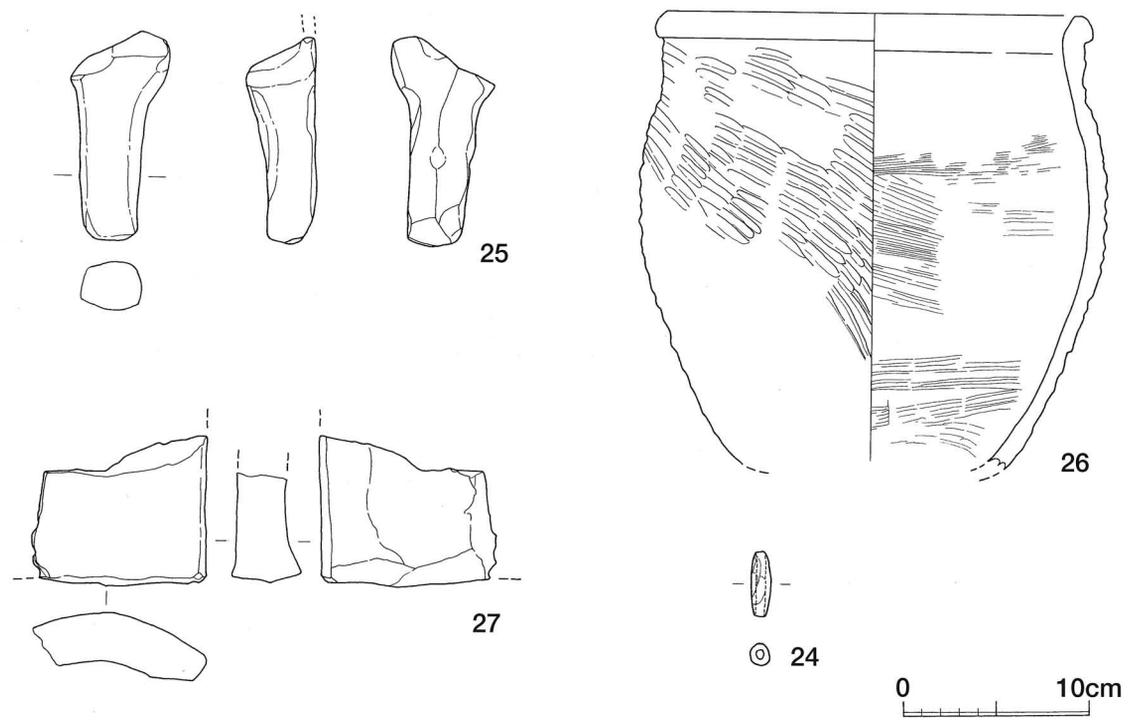


第37図 2007-09地点 1区 平面図・断面図





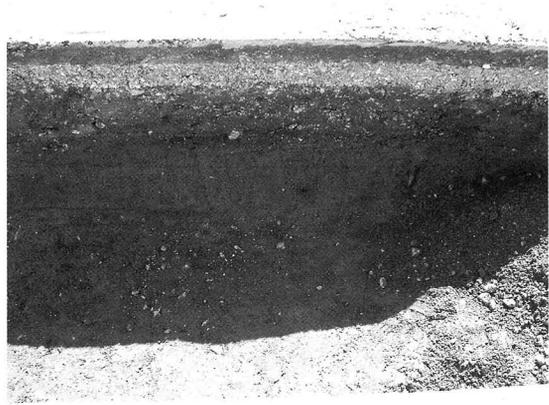
第38图 2007-09地点 出土遺物実測図 (1) (1:4)



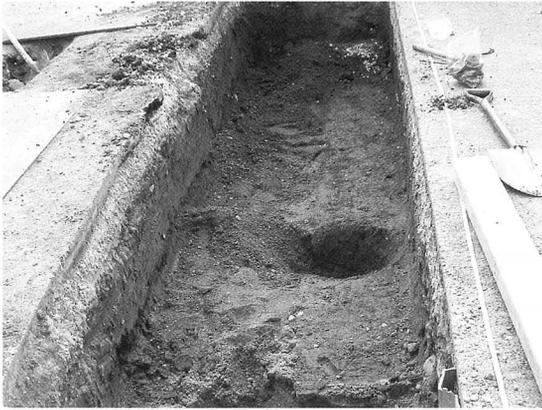
第39图 2007-09地点 出土遗物实测图 (3) (24~17 1:4 · 28~30 1:6)



2区 1T bライン断面



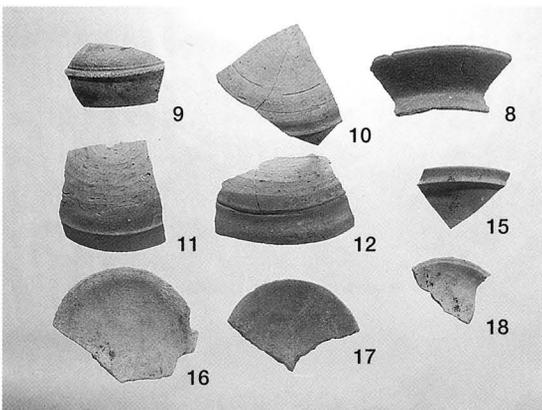
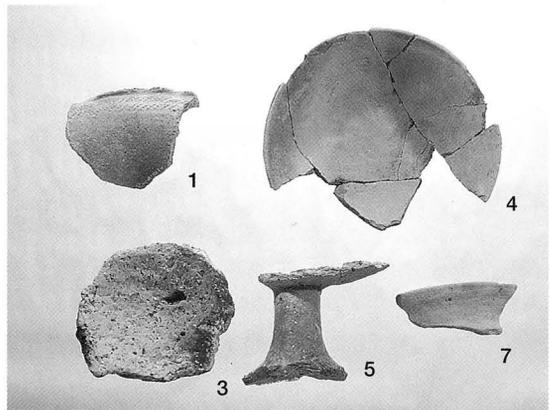
1区 cライン断面



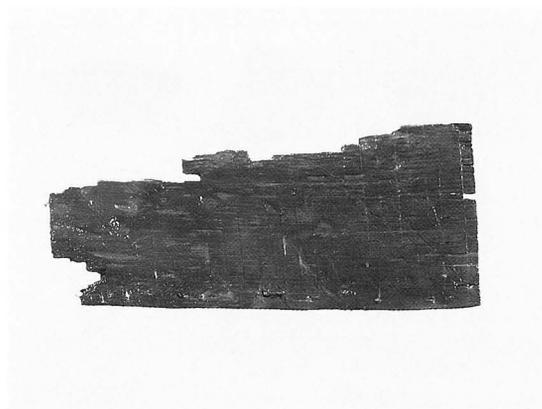
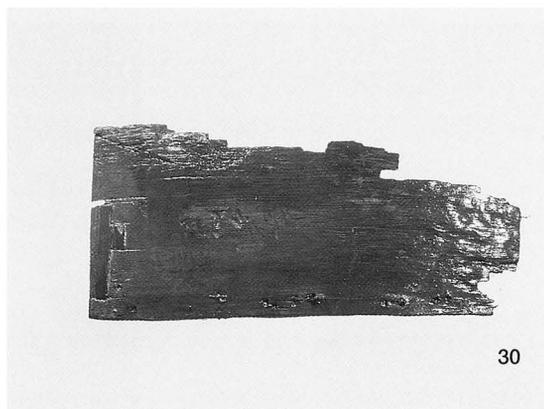
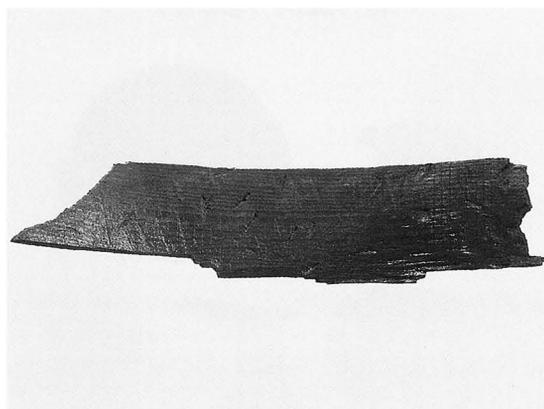
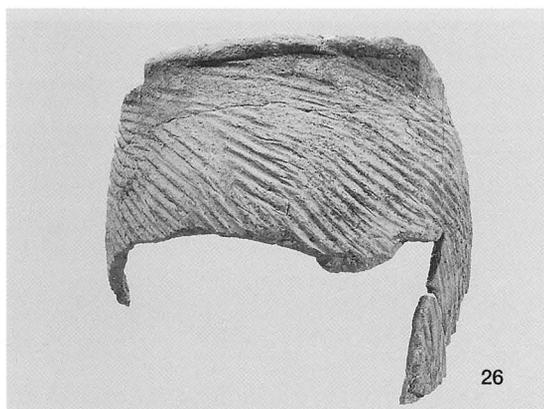
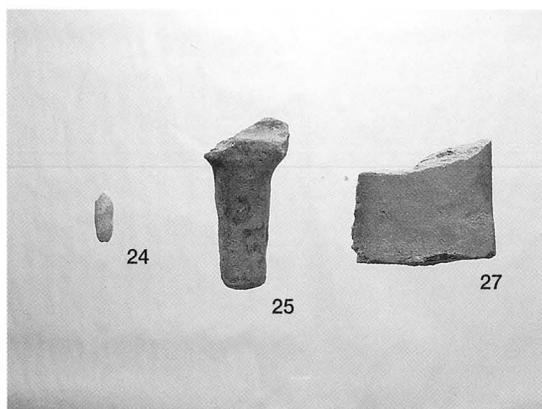
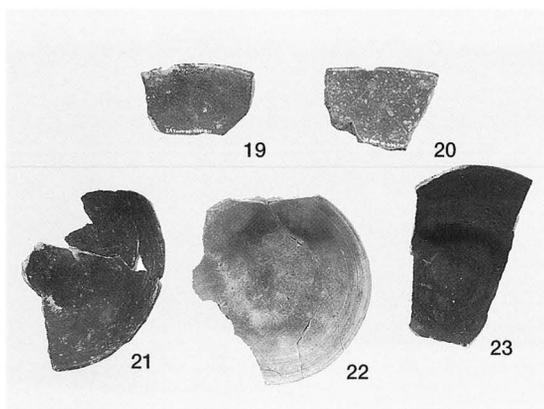
1区 P5完掘状況 (北東から)



1区 SE01 (北から)



出土遺物 (1)  
図版9 2007-09地点

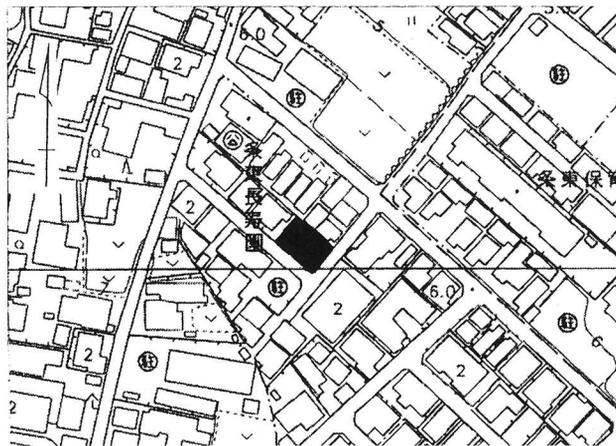


出土遺物 (2)  
 图版10 2007-09地点

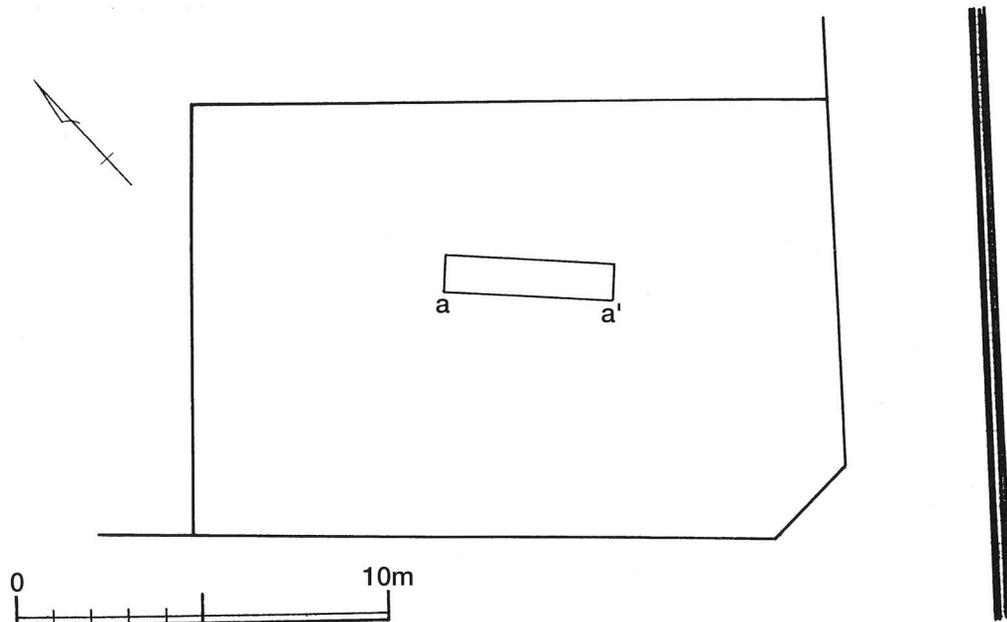
2007-11 (森町2丁目227-74 平成19年10月22日調査)

個人住宅建設に先立つ調査である。池上曾根遺跡の北西部に位置する。調査区に幅1m、長さ4.6mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。現地表面から約30cmは盛土(1層)がなされている。その下層は昭和30~40年代に行われたと考えられる整地土(2層)があり、その下は工場等の可能性がある建物の基礎コンクリートにより、攪乱されている。基礎コンクリートの下層には河川跡と考えられる4・5層が堆積する。遺構・遺物は確認できない。工事は現地表面より約50cm掘削の予定であり、1層内でおさまることを確認した。

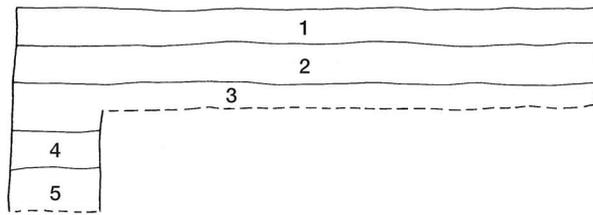
写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第40図 2007-11 調査区位置図 (1:2,500)



第41図 トレンチ位置図 (1:200)



- 1. 盛土
- 2. 整地土：灰色粘土
- 3. 黒色土
- 4. 灰色砂質土
- 5. 黒色粘質土



第42図 2007-11地点 トレンチ断面図 (1:60)



トレンチ全景 (北西から)



トレンチ南壁断面

図版11 2007-11地点

## 5. 千原城跡

千原城跡は本市千原町を中心とする遺跡である。千原城は河内国高屋城主細川氏綱の配下、玉井壱岐守行家の居城であったと伝わる。現在は住宅街となっており城館の痕跡は見受けられない。これまで本格的な調査は行われておらず、詳細は不明である。

本年は個人住宅 1 件の試掘確認調査を実施した。以下詳細を示す。

### 2007-06地点（千原町2丁目233 平成19年4月9日～19日調査 延べ5日）

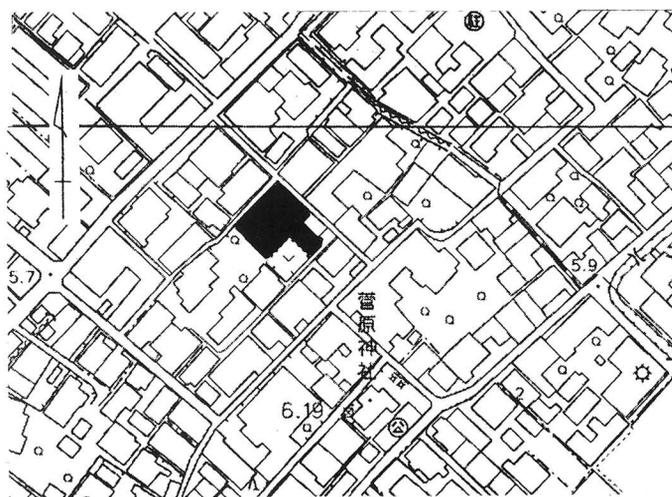
宅地造成に先立つ調査である。当該地は千原城跡の北西部に位置する。住宅建設予定地に幅2m、長さ2.6mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。原因者から掘削は設計GLから50cm（現地表面から約30cm）でとどめるようにとの申し出があり、その範囲での確認とした。

表土直下に被熱し黒色化した層（第3・4層）を確認した。第3・4層の下に遺物と炭化物を多く含む層が約20cm堆積している。住居が消失したのちに整地した痕跡と考えられる。この被熱痕の広がりを確認するため、調査区を拡張した結果、調査区の南部は後世の整地により被熱痕は確認できなかったが、北西部を中心に残存することを確認した。調査区北東部から江戸後期～幕末と考えられる柱穴と、柱穴よりも古い溝を確認した。溝は住居に伴う排水溝と考えられる。了解を得て、一部を地山面まで掘削したところ、溝の下層から直径120cmの井戸と思われる遺構を検出したが諸問題により掘削は断念したため、詳細は不明である。

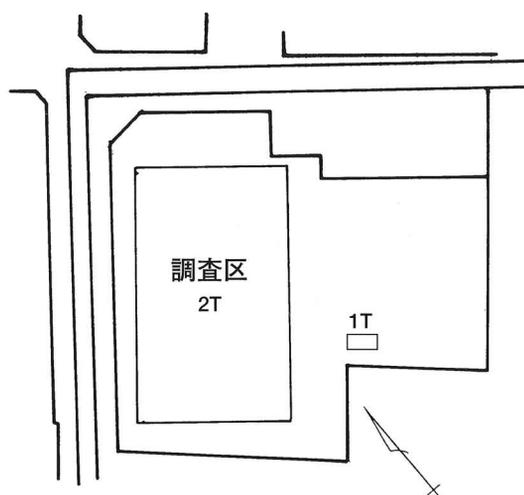
写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。

#### 〈遺物〉

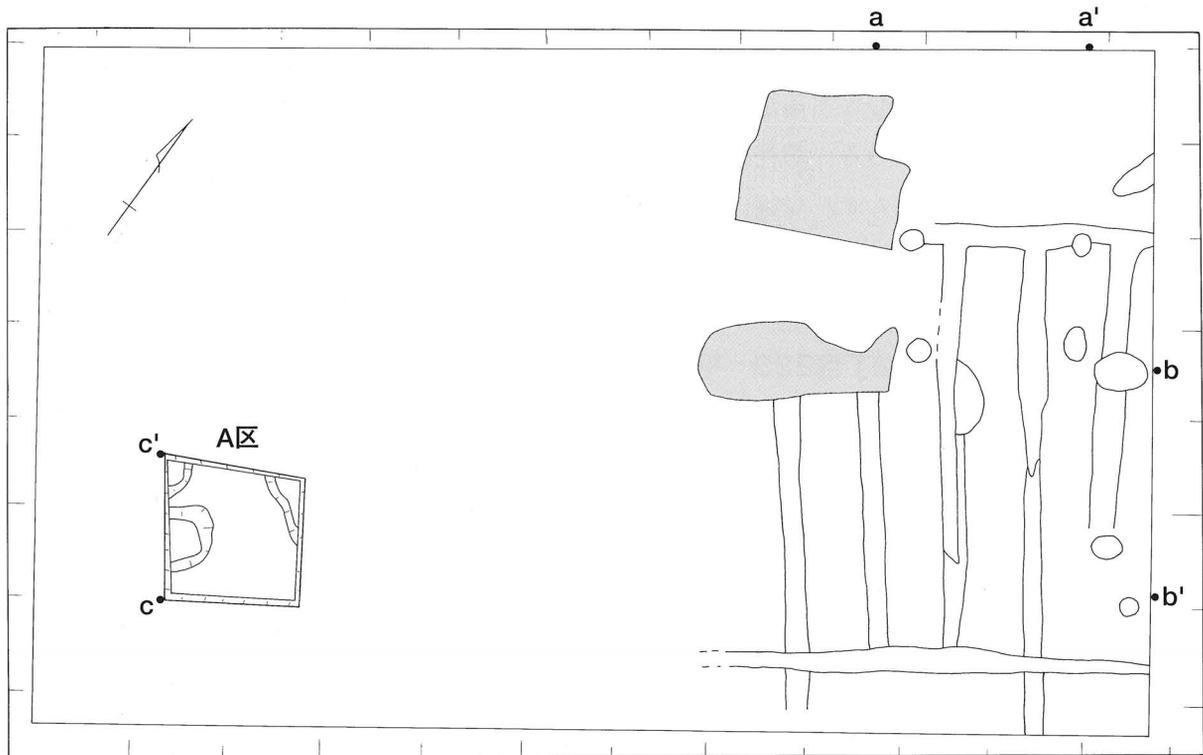
調査区全体から、江戸時代末～近代にかけての遺物が出土した。2は青磁碗である。8・9は軒平瓦である。10はベッコウ製品である。髪飾りの一部であろうか。



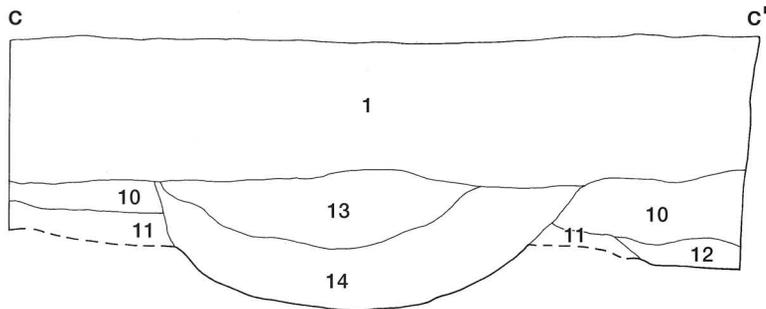
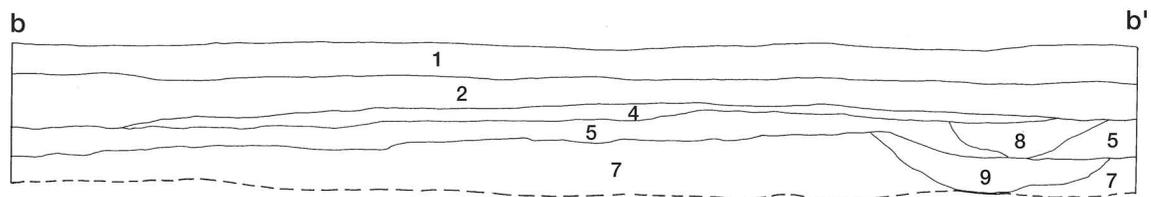
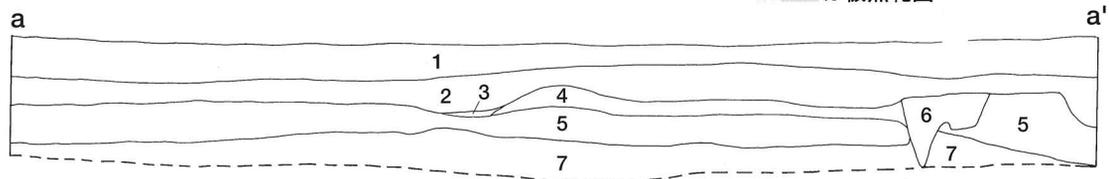
第43図 2007-06地点 調査位置図 (1 : 2,500)



第44図 調査区位置図 (1 : 500)



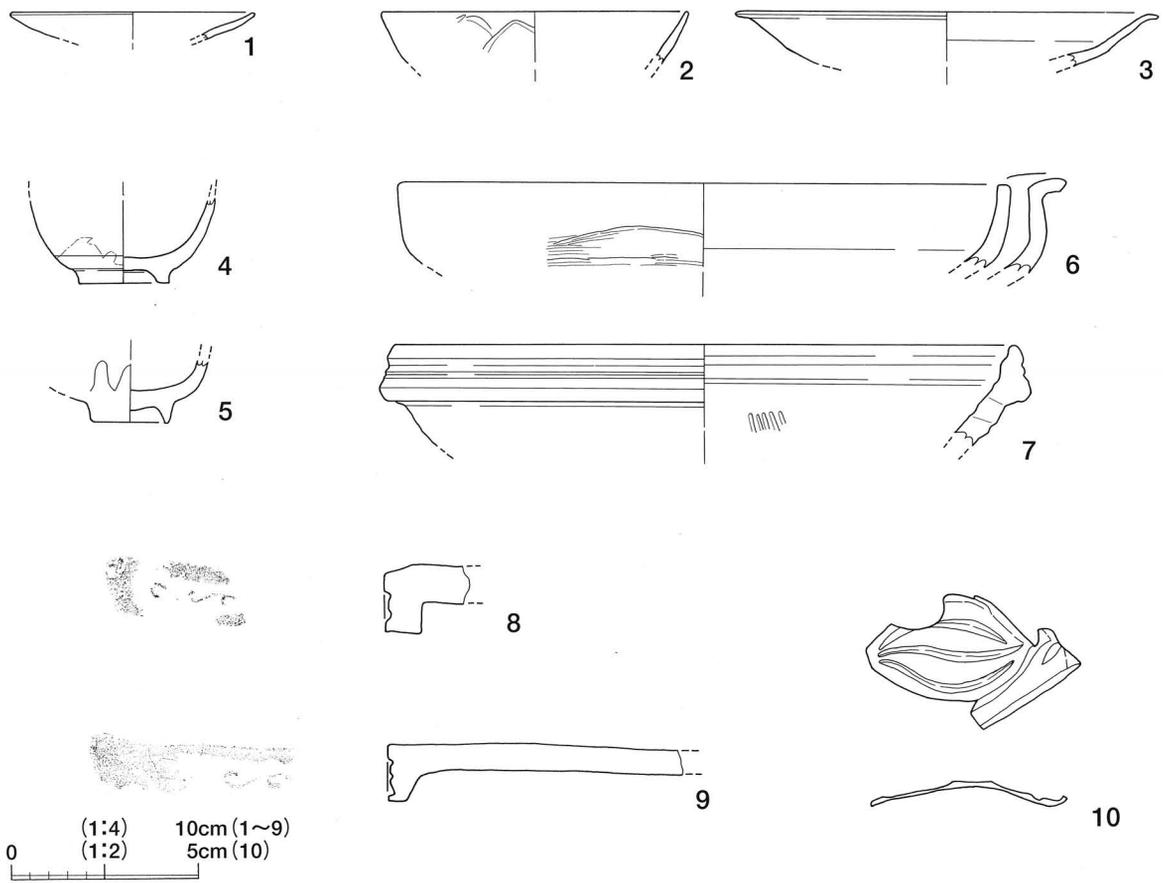
※ 被熱範囲



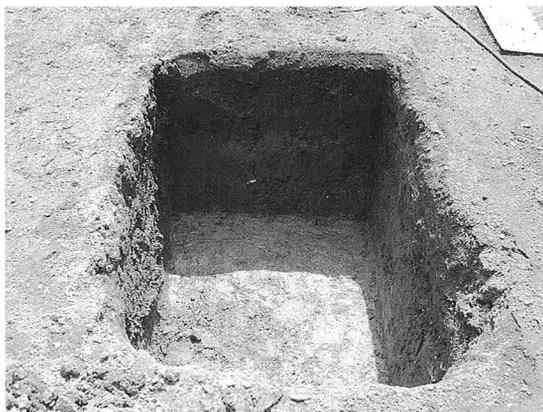
1. 表土
2. 盛土
3. 炭層
4. 黒褐色粘質土 (炭化物・焼土を非常に多く含む)
5. オリーブ褐色粘質土 (炭化物・焼土を多く含む)
6. 5と黒褐色粘質土の混じり
7. にぶい黄褐色粘質土 (細砂10%含む)
8. にぶい黄褐色粘質土 (炭化物含む、黄褐色粘質土ブロック含む)
9. 黄褐色粘質土とにぶい黄褐色シルトの混じり (土器片含む、やや砂混じる)
10. 褐色粘質土とにぶい黄褐色土の混じり (炭化物微量混じる)
11. 地山：にぶい黄褐色シルト (細砂微量混じる)
12. 灰黄褐色粘質土 (地山混じる)
13. SK：黄褐色粘質土
14. SK：黄褐色粘質土とにぶい黄褐色粘質土の混じり

0 (平面図) 10m  
0 (断面図) 1m

第45図 2007-06地点 2T平面図 (1:200)・断面図 (1:20)



第46図 2007-06地点 出土遺物 実測図



1T全景 (北西から)



1T南西断面



2T被熱状況



2T被熱部分断面

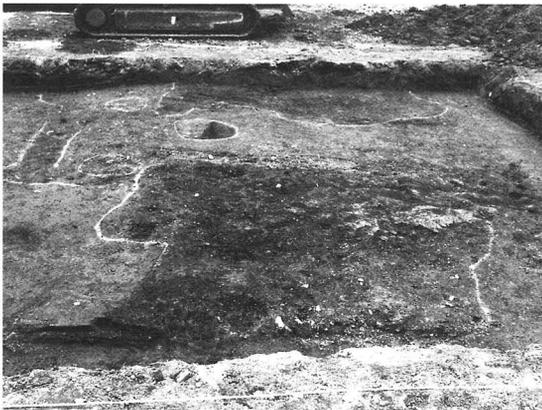
図版12 2007-06地点



2T遺構検出状況



2T遺構検出状況



2T被熱状況



2T北西壁断面 (1)



2T北西壁断面 (2)



2T北西壁断面 (3)

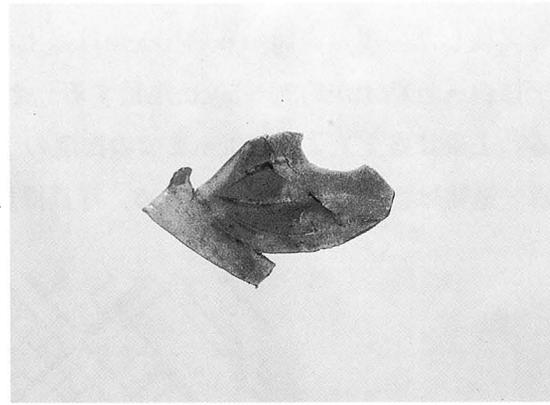
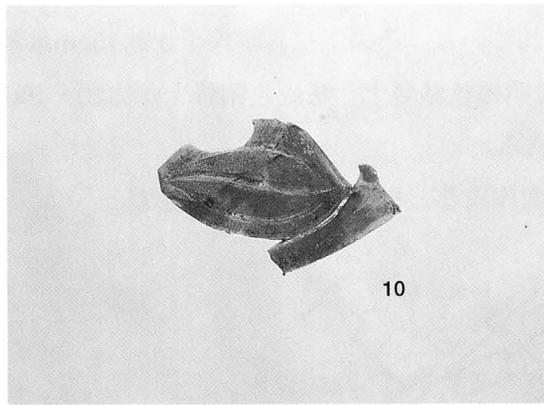
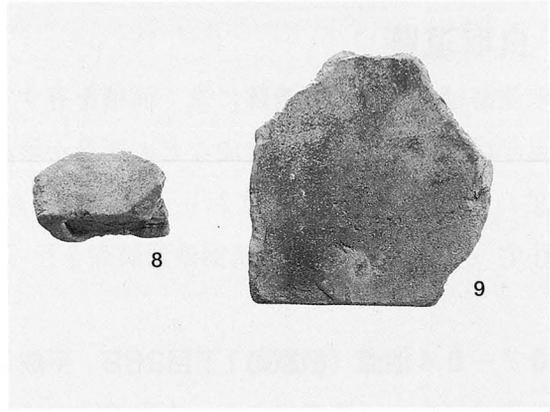
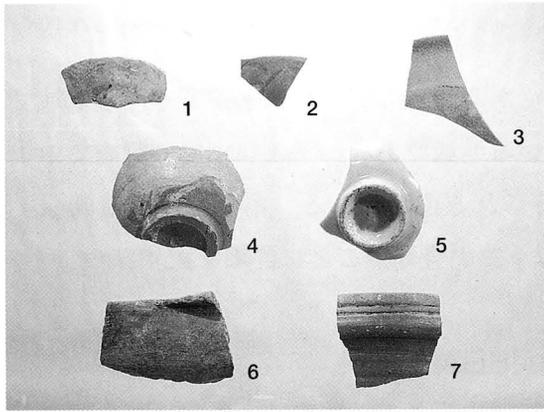


A区 SK01 完掘状況



A区 SK01 断面

図版13 2007-06地点



出土遺物  
图版14 2007-06地点

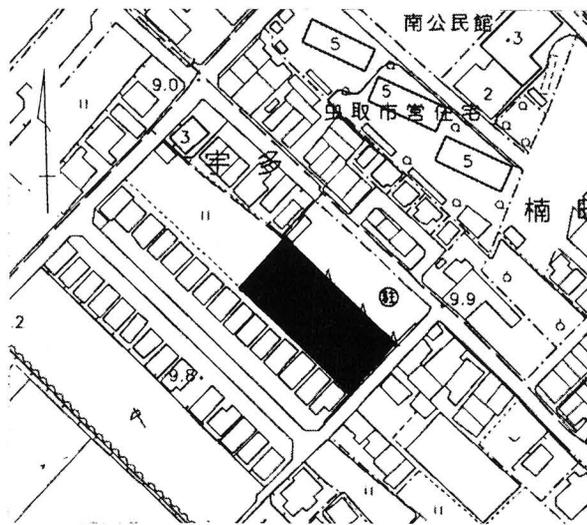
## 6. 虫取遺跡

虫取遺跡は、池上曽根遺跡に次ぐ面積を有する遺跡である。市内では耕作地が多く残る地域であるが、近年は共同住宅・宅地造成などの開発が増加している地域である。平成14年度の調査で中世の居館と思われる遺構を確認しており、今後の調査が期待される遺跡である。本年は宅地造成（1件）、個人住宅（1件）・計2件の試掘確認調査を行った。以下、調査地点ごとに詳細を記す。

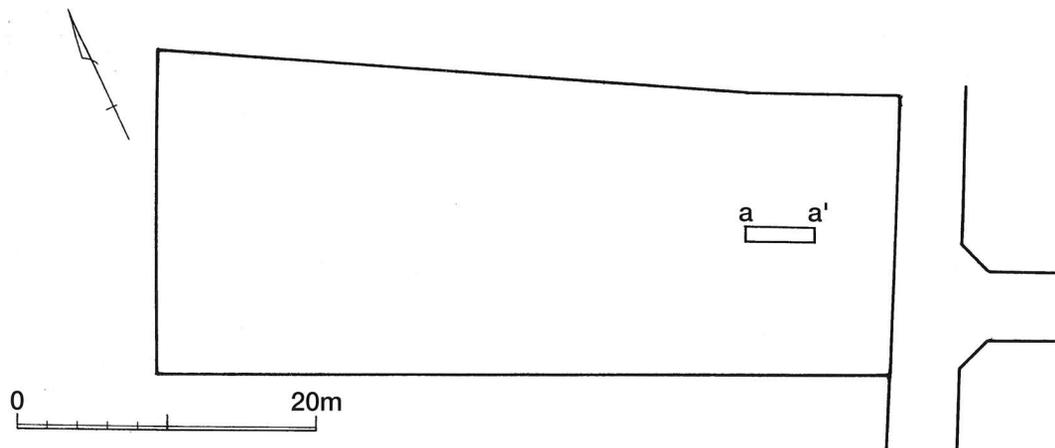
### 2007-04地点（板原町1丁目289 平成19年3月8日調査）

宅地造成に先立つ調査である。虫取遺跡のほぼ中心部に位置する。造成地中央部に下水管理設が予定されていたため、幅1m、長さ4.5mのトレンチを設定し重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。現地表面から約100cmは盛土がなされている。その下に、耕作土が約10cm堆積し、その下に白灰色粘土が約30～50cm堆積する。その下に明褐色粘質土、暗灰色粘質土が約20～40cm堆積する。工事は盛土上より180cmまでの掘削の予定である。

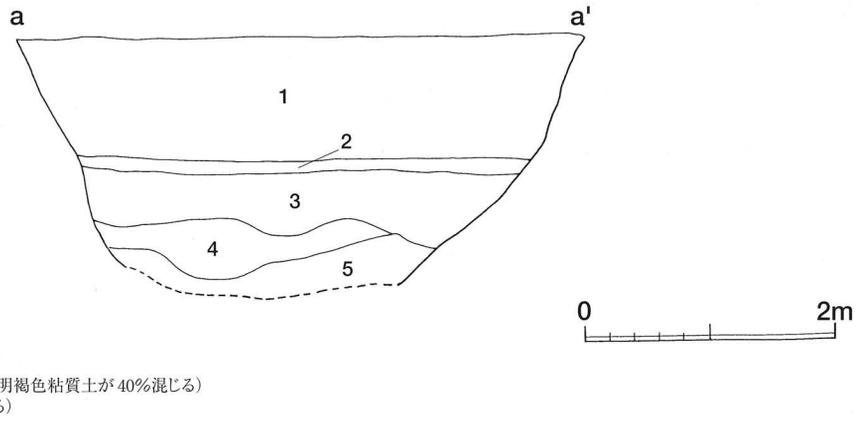
遺構・遺物は認められなかったため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第47図 2007-04地点 調査位置図（1：2,500）



第48図 トレンチ位置図（1：500）



第49図 2007-04地点 トレンチ断面図（1：60）



トレンチ全景（東から）



トレンチ北壁断面

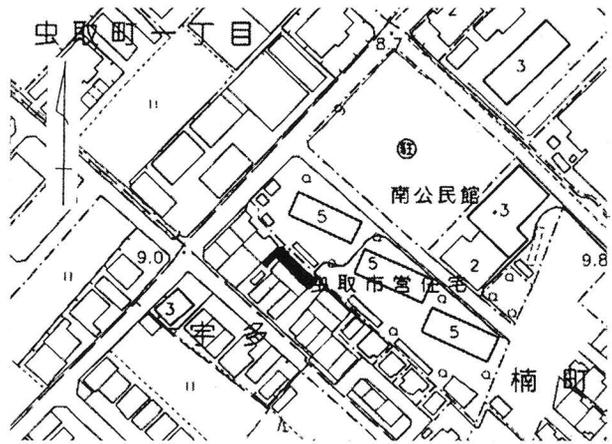
図版15 2007-04地点

2007-05地点 (楠町西25-9、25-16 平成19年3月20日調査)

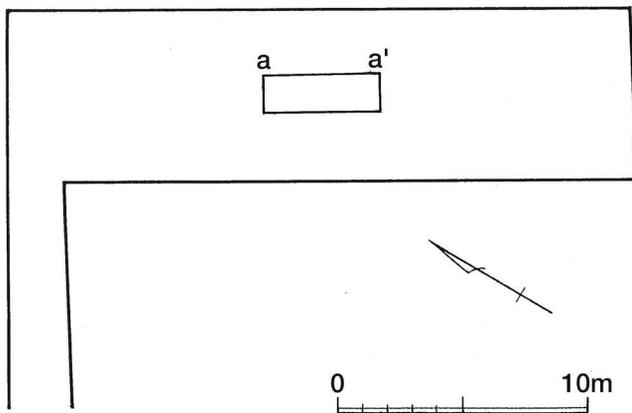
個人住宅の建設に先立つ調査である。虫取遺跡のほぼ中心部に位置する。調査区のほぼ中央部に、幅1m、長さ3.1mのトレンチを設定し、重機にて掘削を開始し、その後人力により調査を実施した。

現地表面から80cmの掘削を行ったが、既存建物の基礎で攪乱されていた。工事は現地表面より50cmの予定である。

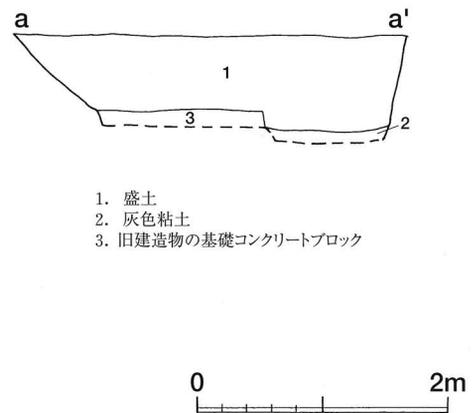
遺構・遺物は認められなかったため、写真撮影・図面作成などを行い調査終了とした。



第50図 2007-05地点 調査位置図 (1:2,500)



第51図 トレンチ位置図 (1:300)



第52図 2007-05地点 トレンチ断面図 (1:60)



トレンチ全景 (南から)



トレンチ東壁断面

図版16 2007-05地点

遺物観察表

報告書 No.	器種	出土地点	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	技法の特徴	色調 外面 内面	焼成	胎土	備考	
穴師薬師寺跡 2007-01地点											
1	弥生土器	高杯	1T包含層		(4.8)		にぶい黄橙	良	密		
2	弥生土器	高杯	1T包含層		(4.2)		にぶい黄橙	良	密		
3	弥生土器	高杯	2T		(7.9)		にぶい黄橙	良	密		
4	弥生土器	高杯	2T		(6.5)	8.4	にぶい黄橙	良	密		
5	弥生土器		2T	復16.2	(2.7)		灰褐	良	密		
6	土師器	小皿	2T	7.2	1.5	6.0	黄褐色	良	密	剥離のため不明	
7	平瓦		2T	縦(12.6)	横(14.5)	最大厚2.1	凹面 布目	良	密	灰	
豊中遺跡・大福寺跡 2007-02地点											
1	瓦質	羽釜	1T	復26.2	(10.0)	復口径34.4	外面 回転ヘラケズリ 内面 ヨコナデ	灰	良	密	灰白
2	瓦質	羽釜	1T	復24.4	(7.0)	復口径32.4	外面 回転ヘラ削り 内面 不定方向のハケ	暗灰	良	密	オリブ黒
3	瓦質	羽釜	1T	22.2	(12.8)	口径30.0	外面 回転ヘラケズリ 内面 回転ナデのちハケ	灰白	良	密	
4	瓦質	羽釜	1T	復23	(10.9)	復30.0	外面 回転ヘラ削り 内面 ハケ目	黒	良	密	灰
5	瓦質	羽釜	包含層 (工事掘削時)	復24	(7.2)		外面 回転ヘラ削り 内面 不定方向のハケ	灰白	良	密	
6	瓦質	羽釜	1T	復23	(6.8)	復口径32.6	外面 回転ヘラケズリ 内面 回転ナデのちハケ	灰白	良	密	灰白
7	瓦質	すり鉢	1T	復36	(8.8)		外面 ナデ 内面 ハケ目	灰白	良	密	
8	瓦質	小皿	包含層 (工事掘削時)	復10.2	1.2	6.0	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	灰白	良	密	灰白
9	陶質	甕?	包含層 (工事掘削時)		(8.5)		外面 ナデのちイタナデ 内面 ヨコナデ	橙	良	密	
10	陶質	甕?	包含層 (工事掘削時)		(5.3)			褐灰	良	密	灰白
11	須恵器	甕	包含層 (工事掘削時)	復20	(5.3)		外面 タタキ 内面 不明	灰白	良	密	灰白
12	瓦質	丸瓦	包含層 (工事掘削時)		縦(5.5)	横(6.5)		暗灰	良	密	灰白
13	瓦質	丸瓦	包含層 (工事掘削時)		縦(7.6)	横(4.5)		灰	良	密	灰白
14	石製品	磨石	包含層 (工事掘削時)	縦(11.1)	横(11.3)						
千原城跡 2007-06地点											
1	土師質	小皿	包含層	復13	(1.4)		外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	にぶい黄橙	良	密	にぶい黄橙
2	青磁	碗	包含層	復16.4	(2.8)			オリブ黒	良	密	オリブ黒
3	青磁	皿	包含層	復22.6	(2.9)			明緑灰釉	良	密	
4	陶器	碗	包含層	復高台径5.0	(4.5)	高台高0.5		灰白釉	良	密	にぶい黄
5	伊万里	碗	包含層	高台径4.0	(3.4)	高台高1.1		明緑灰釉	良	密	
6	土師質	泡焙	包含層	復32.4	(4.4)		外面 回転ナデ 内面 不明	橙	良	密	橙
7	備前?	すり鉢	包含層	復33	(5.5)		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	赤褐	良	密	赤褐
8	瓦	軒平瓦	包含層	縦(4.6)	瓦当部(7.6)			にぶい黄橙	良	密	にぶい黄橙
9	瓦	軒平瓦	包含層	縦(15.5)	瓦当部(6.0)			灰	良	密	灰白
10	ベッコウ	髪飾り	包含層	縦(2.8)	横(5.3)	最大厚0.2		褐色			
池上曾根遺跡 2007-09地点											
1	弥生土器	壺	自然流路	復18	(5.6)		外面 ヨコナデ+ヘラミガキ 内面 不明	浅黄橙	良	密	外面に横溝波状文
2	弥生土器	台付甕	包含層		(6.5)			灰黄	良	密	
3	弥生土器	甕	盛土直下		(3.9)	7.4	外面 ハケ目+ナデ 内面 ハケ目	灰白	良	密	灰黄
4	土師器	高杯	自然流路	15.0	(4.9)		外面 不明 内面 ヨコナデ後ハケ目	浅黄橙	良	密	橙
5	土師器	高杯	遺構覆土		(7.7)			橙	良	密	
6	土師器	高杯	自然流路	復20.0	14.1	13.6	外面 ヨコナデのちヘラミガキ 内面 ヨコナデのちヘラミガキ	浅黄橙	良	密	浅黄橙
7	土師器	甕	自然流路	復17.3	(4.1)		外面 横ナデ 内面 横方向のヘラケズリ	灰黄	良	密	灰黄
8	土師器	甕	自然流路	復17	(3.2)		外面 ハケ目 内面 横方向のハケ目	にぶい橙	良	密	にぶい橙
9	須恵器	甕	自然流路	復14.7	(3.7)		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰	良	密	灰白
10	須恵器	甕	自然流路	復13	4.2		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰白	良	密	灰白
11	須恵器	杯蓋	SD		(3.5)	復体部径13.1	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰	良	密	灰
12	須恵器	杯蓋	自然流路	復12.1	4.65		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰白	良	密	灰白
13	須恵器	杯身	自然流路	10.1	4.7		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰白色	良	密	灰白色
14	須恵器	杯身	自然流路	復12	4.7		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰白色	良	密	灰白色
15	須恵器	盃?	自然流路	復9.2	(3.95)		外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	灰白	良	密	灰白
16	土師質	皿	P	復10.0	1.1			にぶい橙	良	密	にぶい橙
17	土師質	皿	P	復9.3	1.1			にぶい黄橙	良	密	灰白
18	土師質	皿	P	復9.0	1.55			浅黄橙	良	密	浅黄橙
19	瓦器	碗	P	復14	(3.8)			にぶい黄橙	良	密	にぶい黄橙
20	瓦器	碗	P	復15.2	(5.0)		外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	灰色	良	密	灰色
21	瓦器	碗	自然流路	復13.8	5.5	復6.8	外面 暗文 内面 暗文	橙	良	密	橙
22	瓦器	碗	SE01	復13.2	4.2	6.6	外面 回転ナデ 内面 指押さえの後ヨコナデ	黒褐	良	密	にぶい黄橙
23	瓦器	碗	SE01	復15.8	5.4	7.6	外面 指押さえの後ヨコナデ 内面 回転ナデの後磨き 暗文	暗灰	良	密	暗灰
24	土師質	土鐘	盛土直下		縦3.4	横1.1		浅黄橙	良	密	浅黄橙
25	土師質	十能	盛土直下		縦(10.6)			橙	良	密	橙
26	土師質	甕	1T	復22	(24.1)		外面 平行タタキ 内面 ハケ目	淡黄	良	密	灰白
27	瓦	丸瓦	P	縦(7.6)	横(10.2)	最大厚2.6		灰	良	密	灰
28	木製品	曲げ物	SE01	幅(47.5)	(12.5)	最大厚0.65					
29	木製品	曲げ物	SE01	幅(56.0)	(11.9)	最大厚0.65					
30	木製品	曲げ物	SE01	幅(40.8)	(9.3)	最大厚0.65					
31	木製品	曲げ物	SE01	幅(27.4)	(13.0)	最大厚0.5					
豊中遺跡・大福寺跡 2007-12地点											
1	弥生土器	壺	盛土直下	復16.4	(7.0)			橙	良	密	にぶい黄橙
2	弥生土器	壺	包含層	復11.2	(9.9)	復口径8.2		にぶい黄橙	良	密	灰白
3	弥生土器	高杯	包含層		(11.9)	脚部径3.1 脚部径11.9	脚部外面 縦方向のミガキ	橙	良	密	浅黄橙
4	瓦器	碗	包含層	復17.6	8.7	復7	外面 指押さえの後ミガキ 内面 回転ナデの後ミガキ 暗文	灰	良	密	灰

\* 復元径は数字の前に復と記載  
( )は残存高をあらわす

# 発掘調査概報抄録

ふりがな	いずみおおつしまいぞうぶんかざいはくつちようさがいほう
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	26
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	42
編著者名	奥野美和
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595-8686 大阪府泉大津市東雲町9番12号
発行年月日	西暦 2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° / ' / "	東 経 ° / ' / "	調査期間	調査対象面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あなしやくしじあんと 穴師薬師寺跡	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 あびこ 我孫子1丁目507、 508の一部 調査番号2007-01	272060		34度 29分 40秒	135度 25分 59秒	20070123	145.62	鉄骨2階建個人住宅建設に伴う事前調査
とよなか いせき 豊中遺跡	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちよう 北豊中町2丁目 989-5、989-6 調査番号2007-02	272060		34度 29分 46秒	135度 25分 28秒	20070125	195.15	鉄骨2階建自治会館設に伴う事前調査
	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちよう 北豊中町3丁目 976番7、976番8の一部 調査番号2007-10	272060		34度 29分 40秒	135度 25分 37秒	20070803	1,484.19	宅地造成工事に伴う事前調査
とよなか いせき 大福寺跡	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 とよなかちよう 豊中町2丁目 地内 調査番号2007-12	272060		34度 29分 45秒	135度 25分 23秒	20071126 ～ 20071129	604.1	下水道管渠掘削工事に伴う事前調査
ひちのつばいせき 七ノ坪遺跡	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちよう 北豊中町2丁目 464-1の一部、464-12 調査番号2007-03	272060		34度 29分 48秒	135度 25分 22秒	20070301	38.09	鉄骨2階建個人住宅建設に伴う事前調査
	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちよう 北豊中町2丁目 475-7 調査番号2007-07	272060		34度 29分 48秒	135度 25分 25秒	20070424	56.91	鉄骨2階建個人住宅建設に伴う事前調査
いけがみそね 池上曾根遺跡	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 もりちよう 森町2丁目194-1、 199-1、201-2 調査番号2007-08	272060		34度 30分 23秒	135度 25分 29秒	20070628	1,056.77	木造2階建共同住宅建設に伴う事前調査
	おおさか いずみおおつし 大阪府泉大津市 そねちよう 曾根町1丁目 地内 調査番号2007-09	272060		34度 30分 16秒	135度 25分 34秒	20070702 ～ 20070927	203.9	下水道管渠掘削工事に伴う事前調査

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 。 / 。	東 経 。 / 。	調査期間	調査対象面積 ㎡	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
いけがみそね 池上曾根 遺跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 森町2丁目227-74 調査番号2007-11	272060		34度 30分 29秒	135度 25分 35秒	20071022	196.99	木造2階建個人住宅建設に伴う事前調査
ちはらじょうあと 千原城跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 千原町2丁目233 調査番号2007-06	272060		34度 30分 28秒	135度 25分 49秒	20070409 ～ 20070419	417.82	鉄骨2階建個人住宅建設に伴う事前調査
むしとりいせき 虫取遺跡	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 板原町1丁目289 調査番号2007-04	272060		34度 29分 33秒	135度 25分 35秒	20070308	979.64	宅地造成工事に伴う事前調査
	おおさかふいづみおおつし 大阪府泉大津市 楠町西25-9、 25-16 調査番号2007-05	272060		34度 29分 36秒	135度 24分 35秒	20070320	112.57	木造3階建個人住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
あなしやくしじあた 穴師業師寺跡	2007-01	社寺跡	平安 中世	なし	古墳古式土師器高杯・壺、不明土師器小皿
とよなかいせき 豊中遺跡	2007-02	散布地 集 落	縄文 弥生 古墳 平安 中世	自然流路	中世瓦器質羽釜・すり鉢・皿・丸瓦、 中世須恵器甕、中世土師質皿・すり鉢、中世陶質甕、不明磨石
	2007-10		遺構は検出 されなかった	なし	
とよなかいせき 中福寺跡	2007-12	社寺跡	社寺跡	土坑1	弥生土器壺、古墳古式土師器 長頸壺・高杯、中世瓦器碗
ひちのつばいせき 七ノ坪遺跡	2007-03	集 落 生産遺跡 その他の墓	弥生 古墳	遺構は検出 されなかった	なし
	2007-07			遺構は検出 されなかった	なし
いけがみそね 池上曾根 遺跡	2007-08	集 落	弥生 古墳 奈良 平安 中世	遺構は検出 されなかった	なし
	2007-09			古墳溝、中世井戸 1基、中世土坑、 自然流路	弥生土器甕・壺・台付壺、古墳 古式土師器高杯・甕、古墳須恵 器杯・杯身、中世土師器皿、中 世瓦器碗、中世木製品(曲物)、 近世土師質甕・十能、不明土錘
	2007-11			遺構は検出 されなかった	なし
ちはらじょうあと 千原城跡	2007-06	城館跡	中世	近世土坑、近世井 戸、近世溝	近世土師質小皿、近世炮焙、近 世伊万里碗、近世青磁碗・皿、 近世軒丸瓦、近世軒平瓦、近世 陶器碗、近世ベッコウ髪飾り
むしとりいせき 虫取遺跡	2007-04	集 落	弥生 中世	遺構は検出 されなかった	なし
	2007-05			遺構は検出 されなかった	なし

泉大津市文化財調査報告42

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報26

2008年3月

発行 泉大津市教育委員会  
編集 生涯学習課  
泉大津市東雲町9番12号

印刷 和泉市池上町4丁目2番21号  
和泉出版印刷株式会社

